

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-199	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1.編修の基本方針

①生涯にわたり必要な言語能力を身につけるとともに、さまざまな文学的文章への理解を深める。

- ・各単元扉に、その単元での学習目標と、教材ごとに学習する主な目標を示しました。また、「発問」や「学習の手引き」において、学習が効果的に行えるようなポイントを示しました。
- ・近代以降の文学的文章のうち、「随筆」「小説」「戯曲」「詩」「短歌」「俳句」を取り上げ、文学的文章への理解を深めることができるようにしました。
- ・文学や映画について論じた「評論」を取り上げ、多様な角度から文学的文章への理解を深めることができるようにしました。
- ・教材の内容やテーマに関係するコラム「文学への扉」や、作者に関連する資料や解説を示したコラム「参考」などを設け、文学に関わるさまざまな知識を身につけられるようにしました。
- ・附録に「近現代の日本文学史」を設け、必要に応じて、文学の変遷についての理解を深めることができるようにしました。

②共感したり想像したりする力や、創造的な思考力、伝え合う力、思いや考えを広げ深める力を高める。

- ・展開を捉えて内容を理解するのに適した小説教材や戯曲教材を用意しました。また、想像力や表現力を養えるよう、作者の豊かな感性が表れた詩歌教材や随筆教材を配置しました。
- ・書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉えたり、表現を味わったり、また文章を批評的に読むことによって、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりできるよう、いくつかの教材末に「言語活動」などの項目を用意しました。
- ・言語活動教材の学習過程や、読解教材の「学習の手引き」に設けた「言語活動」の課題において、読み取ったことを伝え合ったり、書いたものを読み合ったりする活動を取り入れることにより、「書くこと」「読むこと」の学習の中で伝え合う力を養えるようにしました。
- ・読解教材と関連する作品を比較する「読み比べ」を設け、両者の違いについて考えたり、考えたことを話し合ったりする活動を取り入れることにより、作品への思いや考えを広げ深められるようにしました。
- ・附録に、創造的な思考力を高める創作のポイントを示した「創作へのアプローチ」や、「書くこと」「読むこと」の学習を見通したり振り返ったりすることができる「この教科書で学ぶこと」を設けました。

③進んで読書に親しみ、言葉が持つ価値への認識を深め、人生を豊かにする態度を育てる。

- ・生徒の読書意識を喚起し、読書の幅を広げられるよう、附録「読書案内」で、全単元について、筆者・作者やジャンル・テーマに関連した図書を紹介しました。
- ・本や読書に対する関心を高めたり、本や読書について考えたりするため、本や読書に関連する評論「言葉の池をつなぐ」(Ⅰ部「3評論1」)や随筆「書かれた風景の中へ」(Ⅱ部「1随筆1」)・「クレールという女」(Ⅱ部「4随筆2」)を掲載し、読書に関連する言語活動「書評を書く」(Ⅰ部「3評論1」)を設けました。

2.対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
I 部	1 随筆	<ul style="list-style-type: none"> ・幼年期の身体感覚と、「大人の世界」において流通する情報との乖離について述べた随筆を用意しました。(第1号) ・韓国語翻訳者である筆者の多言語体験を題材として、言葉と自分との関係について述べた随筆を用意しました。(第5号) 	<p>→8～13ページ</p> <p>→14～18ページ</p>
	2 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が虎に変身するという特異な状況の中での、主人公の内面と苦悩について描いた小説を用意しました。また、関連作品と比較する教材を設けました。(第1号) ・結婚前後での朝の時間の過ごし方の変化から、なくすことで好きになるものについて語られた小説を用意しました。(第2号) ・小説を創作し、友達と批評し合う活動を通して、創造的な思考力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→20～35ページ</p> <p>→36～43ページ</p> <p>→44～45ページ</p>
	3 評論1	<ul style="list-style-type: none"> ・来る年ごとに咲く花について述べられた中国の詩を題材として、詩における美や真実について述べた評論を用意しました。(第4号)(第5号) ・作品鑑賞における言葉の役割について考え、作品の評価と自己の創作との関係について述べた評論を用意しました。(第2号) ・書評を書くとともに、友達を書いた書評と、そこで取り上げられた本とを読み比べる活動を通して、伝え合う力を養う教材を用意しました。(第3号) 	<p>→48～54ページ</p> <p>→55～59ページ</p> <p>→60ページ</p>
	4 小説2	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖的で絶望的な状況における悲しみや孤独感を寓意的に描き、他者との関わりによって、その孤独な魂が僅かに慰められる小説を用意しました。(第3号) ・沖縄戦において、負傷者たちへの献身を貫いて亡くなった看護師の姿を通じて、平和について考える小説を用意しました。(第5号) 	<p>→62～74ページ</p> <p>→75～95ページ</p>
	5 詩歌	<ul style="list-style-type: none"> ・「竹」、「永訣の朝」など、高校生の情操を培うのにふさわしい詩・短歌を用意しました。(第1号) ・筆者の作歌や選歌の経験を踏まえ、短歌における表現の要諦や、言葉を使う際の態度について述べた評論を用意しました。(第5号) ・共同で詩を作る活動を通して、創造的な思考力を高め、伝え合う力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→98～112ページ</p> <p>→113～117ページ</p> <p>→118ページ</p>
	6 小説3	<ul style="list-style-type: none"> ・「お嬢さん」を巡る出来事によって変化する「先生」や「K」の心情を、「先生」の視点から描いた小説を用意しました。また、同小説の関連する他の部分と比較する教材を設けました。(第1号) 	<p>→120～153ページ</p>
	7 評論2	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤頭巾」「狂言』『伊勢物語』といった作品を例に挙げて、「文学のふるさと」とはどのようなものかを述べた評論を用意しました。(第1号)(第5号) ・民話とその語りに関する映画や本を題材として、物語の意義について述べた評論を用意しました。(第5号) ・文学作品に関する評論や解説を参考に論述する活動を通して、考えを広げ深める力を養う教材を用意しました。(第1号) 	<p>→156～166ページ</p> <p>→167～174ページ</p> <p>→175～176ページ</p>
	8 小説4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意志で鞆を持っているつもりで、実は鞆に制御される青年や「私」を描くことで、負荷を欲し、拘束されることに安堵さえ覚える現代人の姿を風刺した小説を用意しました。また、関連作品と比較する教材を設けました。(第2号) ・引っ越し先の町での主人公と隣人たちとの心地よい距離感の中での交流を通して、現代社会における人間関係の在り方を描いた小説を用意しました。(第2号)(第3号) ・これまでに学んだ古典作品のうち一つを選んで翻案作品を創作する活動を通して創造的な思考力を養う教材を用意しました。(第5号) 	<p>→178～187ページ</p> <p>→188～197ページ</p> <p>→198ページ</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
Ⅱ部	1 随筆1	<ul style="list-style-type: none"> ・用いられる言語によって、見える世界や自らの感じ方が変わることについて述べた随筆を用意しました。(第5号) ・英語を母語として育った筆者による、『万葉集』『古寺巡礼』の読書体験と、山辺の道での旅行体験が述べられた随筆を用意しました。(第4号)(第5号) 	<p>→200～208ページ</p> <p>→209～214ページ</p>
	2 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ・青年の瞬間ごとに変化する心の不可思議さ、その中で体験される美の衝撃を描く小説を用意しました。また、関連作品と比較する教材を設けました。(第1号) ・父の胸のへこみを巡るエピソードを通して、家族との記憶や別れの悲しみを静かに描いた小説を用意しました。(第2号)(第3号) ・小説の人称を書き換える活動を通して、創造的な思考力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→216～229ページ</p> <p>→230～242ページ</p> <p>→243ページ</p>
	3 詩歌	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰途」、「小諸なる古城のほitori」など、高校生の情操を培うのにふさわしい詩・俳句を用意しました。(第1号) ・「悟りとはどんな時でも平気で生きていくこと」という境地に達した正岡子規の生き方を論じた評論を用意しました。(第2号) ・テーマを立ててアンソロジーを作り、読み合って批評し合う活動を通して、創造的な思考力を高め、伝え合う力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→246～255ページ</p> <p>→256～265ページ</p> <p>→266ページ</p>
	4 随筆2	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーや性についての自身の認識と一人称との関係について述べた随筆を用意しました。(第3号) ・人間らしく生きるとは何かという問題が提示された本と、その本を読んだ筆者の人生を重ね合わせるように述べる随筆を用意しました。(第2号)(第3号) 	<p>→268～274ページ</p> <p>→275～284ページ</p>
	5 戯曲	<ul style="list-style-type: none"> ・終戦直後の広島における父と娘とのやり取りを通して、親子の関係や平和について考える戯曲を用意しました。(第5号) ・好きな小説のある場面を脚本に書き換え、原作にした小説と比較する活動を通して、創造的な思考力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→286～309ページ</p> <p>→310ページ</p>
	6 小説2	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の知識階級の青年を通して、自我の目覚めとその挫折の苦悩を描く小説を用意しました。(第1号) 	<p>→312～347ページ</p>
	7 評論	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の語り手である「私」が果たす役割について論じることで、小説の構造や表現の特徴を明らかにした評論を用意しました。(第1号) ・テキストを読むとはどのような行為なのか、どのようにすれば人はテキストと豊かな関係を築くことができるのかを説く評論を用意しました。(第5号) ・即興の演技と、単一のカメラアングルによって撮られた映画を題材として、物語における語り手の機能について論じた評論を用意しました。(第1号) ・小説と映画化作品を比較し、批評する活動を通して、創造的な思考力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→350～354ページ</p> <p>→355～362ページ</p> <p>→363～372ページ</p> <p>→373～374ページ</p>
	8 小説3	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹の嘘と、その嘘が現実になったかのような不思議な出来事を通して、人間の心の奥深さを描いた小説を用意しました。(第1号) ・馬車に乗り合わせた人々と、その人々に起こる出来事を、「蠅」の視点から描き、偶然の事故により運命を狂わされる人間のむなしさを浮き彫りにする小説を用意しました。(第1号) ・文学作品についてさまざまな資料を調べて発表する活動を通して、創造的な思考力を高め、伝え合う力を養う教材を用意しました。(第2号) 	<p>→376～389ページ</p> <p>→390～400ページ</p> <p>→401ページ</p>

3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○将来の進路の選択や、一般的な教養を高めることに資するよう、教材の中で多様なテーマを取り上げるとともに、読書案内を掲載して読書へといざなうように配慮しました。(学校教育法第51条2号)

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-199	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

1.編修上特に意を用いた点や特色

①目標

・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するという「目標」を踏まえ、「内容」に示された「知識及び技能」の2事項と「思考力、判断力、表現力等」の2領域の学習が効率的・有機的に行えるようにするとともに、「学びに向かう力、人間性等」を十分に養うことができるように配慮しました。

②「知識及び技能」

- ・漢字および語彙については、読解教材の脚注欄に「注意すべき語句」を示したり、「学習の手引き」の後に「漢字と語彙」の問題を掲載したりすることで、意識的・継続的に学ぶことができるようにしました。
- ・「随筆」「小説」「(文学などについての)評論」「詩」「短歌」「俳句」「戯曲」などの多様な種類の文学的文章を掲載し、文学的文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができるようにしました。
- ・「小説を創作する」「小説の人称を書き換える」などの言語活動を設け、文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができるようにしました。
- ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書へのいざないとして、単元扉で掲載教材に関連する本のタイトルを示し、附録の「読書案内」でそれらの本をまとめて紹介しました。

③「思考力、判断力、表現力等」の「A 書くこと」

・文学的文章を創作したり、創作した作品を批評し合ったりする言語活動教材を用意するとともに、読解教材との相互関連を図りました。

④「思考力、判断力、表現力等」の「B 読むこと」

- ・教材については、「3 内容の取扱い」(3)アの観点に示された事項に留意して選定しました。
- ・作品の内容や形式について議論したり論述したりする言語活動教材や、作品に関連のある事柄を調べて発表する言語活動教材などを用意するとともに、読解教材との相互関連を図りました。
- ・読解教材と関連した他の作品と比較する教材を用意することで、作品の解釈や、作品に対する自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができるようにしました。
- ・附録に「近現代の日本文学史」を設け、必要に応じて、文学の変遷について学ぶことができるようにしました。

2.対照表

単元	教材名	学習指導要領の内容		頁	配当時間			学期	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		書	読	計		
			書くこと						読むこと
I 部									
1 随筆	光の窓	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	8		2	2	1 学 期 24
	言葉の痕跡	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	14		2	2	
2 小説1	山月記	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	20		3	3	
	【文学への扉1】変身ということ	(1)エ		(1)オ	46				
	【読み比べ】「山月記」と「人虎伝」を読み比べる	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、オ	34		1	1	
	あの朝	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、イ	36		2	2	
	【言語活動】小説を創作する	(1)ア、ウ、エ	(1)ア/(2)ア		44	8		8	
3 評論1	詩と感情生活	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	48		2	2	
	言葉の池をつなぐ	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	55		2	2	
	【言語活動】書評を書く	(1)ア、ウ、エ		(1)ア、ウ/(2)ア	60		2	2	
4 小説2	山椒魚	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、エ	62		3	3	
	【文学への扉2】小説は誰のものか	(1)エ		(1)オ	96				
	沖縄の手記から	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	75		4	4	
5 詩歌	鉄	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	98		1	1	
	竹	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	100		1	1	
	永訣の朝	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	102		2	2	
	硝子の駒ー短歌抄	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、ウ	108		2	2	
	言葉に対する憤り	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	113		2	2	
	【言語活動】共同で詩を創作する	(1)ア、ウ、エ	(1)エ/(2)エ		118	6		6	
6 小説3	こころ	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、エ	120		6	6	
	【文学への扉3】襖という建具	(1)エ		(1)イ	154				
	【読み比べ】「こころ」上と下を読み比べる	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、エ	152		1	1	
7 評論2	文学のふるさと	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	156		2	2	
	「物語り」について	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	167		2	2	
	【言語活動】評論や解説を参考に論述する	(1)ア、ウ、エ		(1)オ/(2)イ	175		3	3	
8 小説4	鞆	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、エ	178		1	1	
	【読み比べ】小説に込められた寓意を考える	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、キ	186		1	1	
	隣人運	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、イ	188		2	2	
	【言語活動】翻案作品を創作する	(1)ア、ウ、エ	(1)イ/(2)ウ		198	7		7	
2 学 期 28									
3 学 期 18									

単元	教材名	学習指導要領の内容		頁	配当時数			学期	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		書	読	計		
			書くこと						読むこと
Ⅱ部									
1 随筆1	国語から旅立って	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	200	2	2	1 学期 24	
	書かれた風景の中へ	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ、キ	209	3	3		
2 小説1	檸檬	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、エ	216	2	2		
	【文学への扉4】記号も言語の一種	(1)エ		(1)イ	244				
	【読み比べ】小説の解釈を深める	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、オ	227	1	1		
	最後のドッジボール	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、イ、エ	230	2	2		
	【言語活動】小説の人称を書き換える	(1)ア、ウ、エ	(1)ウ／(2)イ		243	9	9		
3 詩歌	夏の姿	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	246	1	1		
	帰途	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	248	1	1		
	小諸なる古城のほとり	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、イ	250	1	1		
	金剛の露－俳句抄	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、ウ	252	2	2		
	平気－正岡子規	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	256	3	3		
	【言語活動】アンソロジーを作る	(1)ア、ウ、エ		(1)ウ、キ／(2)オ	266	3	3		
4 随筆2	空っぽの瓶	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	268	2	2		
	クレールという女	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	275	3	3		
5 戯曲	父と暮せば	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	286	4	4		
	【言語活動】小説を脚本に書き換える	(1)ア、ウ、エ		(1)イ、ウ／(2)ウ	310	3	3		
6 小説2	舞姫	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	312	10	10		
	【文学への扉5】小説の冒頭部	(1)エ		(1)イ	348				
7 評論	演技する「私」	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	350	2	2		
	文学の未来	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、カ	355	2	2		
	映画の可能性のために	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、カ	363	3	3		
	【言語活動】映画と原作を比較する	(1)ア、ウ、エ		(1)ウ、オ／(2)エ	373	3	3		
8 小説3	葉桜と魔笛	(1)ア、イ(2)ア		(1)ア、エ	376	3	3		
	蠅	(1)ア、イ(2)ア、イ		(1)ア、エ	390	2	2		
	【文学への扉6】映画と小説	(1)ア		(1)オ	402				
	【言語活動】さまざまな資料を調べて発表する	(1)ア、ウ、エ		(1)オ、キ／(2)カ	401	3	3		
(Ⅰ部・Ⅱ部)合計						30	110	2 学期 28	
								3 学期 18	

常用漢字以外の使用漢字一覧表

(数字は初出ページを示す。)

(前見返し)

② 濱 ③ 鞆 訣 吾 椒 檸 檬 漱 澤 蠅 鷗 雀

(目次)

2 鮎 萩 朔 昌 敦 彦 鱒 鈇 3 襖 寓 宏 絲 4 梶 權 5 誼

(本文)

7 柴 繪 茱 莉 濯 綺 譚 9 渾 10 函 蠟 11 飴 倦 12 謚
15 醜 醐 16 逡 19 汐 汲 20 穎 臥 李 儁 峭 恃 榜 炯 狷
賤 隴 號 21 於 嘉 徽 杭 蘇 汝 洛 嶺 快 悖 浙 淮 渭 袁
慘 陝 鄱 22 厭 峻 叢 懼 闊 23 愧 赧 24 兎 茫 26 嗤 誦
27 蓬 茅 此 仍 嘯 已 軺 嗥 28 伍 磋 琢 悶 倨 慙 恚 碌
29 巖 怯 灼 哮 30 憐 慟 哭 31 咆 34 謂 嘗 丞 其 乃 之
楊 亮 咸 曰 酣 35 忽 悉 楚 囊 橐 鞭 捶 俟 餞 饋 37 咀
嚼 39 馴 挽 愕 43 蟬 45 俯 瞰 敲 47 劉 50 夷 栗 52 舵
杼 56 芻 61 俘 奢 棘 62 狼 狽 63 苔 64 遁 65 楫 稗 67
蛙 瘋 癩 68 錫 淵 牢 71 撻 73 遙 75 壕 祿 78 濡 膿 濘
80 汞 炸 蛆 82 梱 85 珊瑚 榴 88 呆 鳴 90 昏 94 摺 97
伊 99 躄 踏 101 犀 吠 102 椀 蓴 103 蒼 崗 104 零 105 兜
勒 菩薩 108 埴 曼 109 荻 沁 迢 塚 110 蒔 智 111 樺 穰
鍼 虐 112 堺 115 隈 116 學 燈 121 鸞 127 俸 崇 129 冴
132 龍 悄 133 讐 彷徨 136 梢 套 137 熾 139 懊 143 苑
駿 廠 靖 閭 麴 144 曠 145 狡 猾 148 詔 149 檻 152 杏
157 髻 161 芥 槍 162 綾 165 炳 167 騙 177 國 閒 187 篇
190 蛾 196 寥 裔 202 對 207 魯 211 榷 櫃 弘 濠 篠 柘 辻
毫 215 妓 屍 216 尖 217 葵 糊 縞 鼠 218 翡 翠 鯛 塹 219
琥 珀 鹼 220 鱈 廂 221 絢 錘 弛 螺 爛 鎰 顆 驟 222 柑
烟 223 橙 謔 227 肋 228 蕩 邁 229 喧 巴 愴 擗 232 噌
239 醬 245 哉 址 247 視 250 霞 萌 藉 衾 繫 蔓 251 畠

252 曳 廻 咳 碧 梧 桐 紐 253 葱 楸 邨 鮫 鯁 嚙 254 茹
 255 庵 馥 郁 蒙 256 喀 牀 257 堵 迄 258 炒 259 茗 260
 瓜 261 駮 痰 269 蜘蛛 271 惚 275 栖 277 瀟 洒 282 鞞
 283 翳 285 鶻 叉 286 閃 288 饅 294 碗 303 焚 304 桶 刺
 306 鋸 槌 斧 梁 挺 309 樋 廈 311 雁 菟 蘭 312 牌 313 瑞
 恙 314 綴 銷 鬢 315 倚 瀝 義 316 凱 睫 聚 317 瑣 筵 318
 晋 猜 蔗 讒 誣 愷 319 赫 珈 琲 320 洩 僑 垢 巷 梯 髭
 冤 恍 艱 襦 袷 322 憫 歛 獻 涸 323 媪 慇 勲 324 煉 廚
 氈 325 媚 326 兀 坐 駮 327 訛 328 鬢 329 餐 輯 棲 盞
 330 殂 331 庖 坎 坳 鍤 333 吻 踟 躑 334 庇 朋 輾 軻 335
 粟 玻 336 咄 嗟 337 燭 繞 鏤 驕 339 袂 340 云 禽 稜 馭
 341 瞥 徊 鑼 342 襠 裸 343 斯 榻 344 驚 顛 349 蓮 實 恆
 351 吝 嗇 352 淳 361 絆 363 毅 364 扮 375 也 383 寵 390
 廐 糞 藁 392 桂 394 几 396 贅 397 腑 饒 398 埒 藝 402
 佛 疽 黎

(附録)

404 籃 迨 405 硯 夭 406 蕉 芭 富 蘆 蕪 蜥 蜴 407 蒲 樗
 董 謳 408 阿 耽 嚙 軋 轢 黴 409 或 啄 410 撼 笏 411 惟
 蟹 412 辰 瀕 礪 413 鮫 憚 414 播 415 牽 柎 416 檣 417
 遼 乖 峙 杏 焉 鞞 418 磯 芙 俟 牟 佑 419 綜 灘 瞞 420
 浩 421 耶 424 稀 晰 426 董 鮪 427 鴟

(後見返し)

⑤ 駮 歇

音訓一覽表

(数字は初出ページを示す。)

(前見返し)

- ② 和子
③ 硝子 与謝野晶子 雲雀 瓶

(目次)

2 光代 敏幸 井伏鱒二 三角 萩原 3 安部 4 又柔 英雄 小諸 5 暮せば 6
井上 諏訪敦彦 宏 正嗣

(本文)

18 釜山 19 理英子 20 江南尉 遺す 22 故人 23 身体 24 還る 27 偶
爪牙 誰 敢へて 為る 但だ 28 珠 榎れる 29 昨夕 30 墮とす 34 少く 能
はず 毎 生 等 僚友 則ち 35 者 以つて 干む 固より 将に 遺る 且に
未だ 逆旅 中 舍る 疾 勝へず 是 益 何 も無く 適く 42 気怠い 陽射
し 煙草 47 苦本隆明 静男 48 信夫 50 翁 廷芝 字 53 荒地 61 健三郎
敏雄 66 退く 73 満寿二 76 眼差し 77 慶良間 今帰仁 読谷 与那原 南風原
東風平 喜屋武 摩文仁 渡嘉敷 鏡水 垣花 豊見城 81 中通 82 凹地 85 太股
膝関節 88 嗚咽 90 黄昏 97 真人 101 室生 105 変つて 聖い 資糧 108
少女 瓶 蔓珠沙華 秋陽 径 109 邦雄 奔る 枯野 落葉 裕幸 110 方智 111
氷魚 折口信夫 伊勢 115 湖 119 武者小路実篤 春樹 121 従妹 陸仁 希典
安房国 122 小人数 市ヶ谷 123 敷居 128 射す 132 他 133 不忍池 138
昨夕 142 神保町 147 翌日 150 雑司が谷 豊島 152 銀杏 153 坊主 155
英雄 158 冠者 163 現身 177 香織 183 公房 186 紀 189 苗字 東雲
199 山辺 柿本人麻呂 国男 202 對不起 207 台北 魯肉飯 213 畝傍 耳成
216 宿醉 217 向日葵 路 市 219 切子 煙管 煙草 220 快速調 222 掌
撲つ 224 跳る 225 微笑ませる 227 庸郎 非ず 把む 228 烈しい 衝動
外村繁 康成 天城 万三郎 231 越谷 235 歳 238 寿司 245 飯田 248 眼
250 香 信濃 251 辭 千曲 253 凍てる 255 小豆 南郷 求道 羽羽 256 我
目 日清 257 所謂 如何なる 258 信 260 糸瓜 267 百合子 273 早稲田
275 有栖川 282 臨濟宗 285 仁 利規 286 福吉 文机 下駄 288 饅頭 米
下 290 一途 272 退く 293 眞 295 鹿籠 会う 297 昭子 299 倉敷 301
乙羽 303 洒落 買う 304 薪 招ぶ 剃刀 309 洒脱 吉里吉里人 311 松魚節
到着 312 太田 卓 今宵 骨牌 五年 平生 尋常 途 日記 独逸 313 東 出
づ 房 瑞西 伊太利 腸 314 彫る 訓へ 喪ふ 荒む 首 歳 某 315 伯林
欧羅巴 菩提樹 隊々 維廉 少女 巴里 粧ふ 土瀝青 316 噴井 鈴索 普魯西
仏蘭西 暇 317 活きる 318 麦酒 棒 合歡 触る 処女 319 珈琲店 女 320

蘭す 媒 灯火 木欄 猶太 翁 楼 巾 322 目 外人 貯へ 眠 323 老媪
 悪し 額 印す 油灯 324 右手 左手 臥床 微紅 潮す 室 葬る 二年 325
 来ん 326 背 終日 327 業 善 328 愛づる 秋 数奇 329 午餐 食店 商人
 右草 幾種 往来 330 仏得力 331 朝 恵阻 真 332 昨夜 面もち 容 333
 幾年 門者 階 廊 伯 334 生活 335 膚 336 明旦 魯西亜 性 337 任務
 338 生計 底 族 339 他人 340 云々 旦 342 頭 343 衝く 埋もれる 344
 寝ぬ 数週 345 赤児 346 千行 議る 遺す 於母影 349 秀子 恆存 蓮美重彦
 352 近松門左衛門 虚美皮膜 364 柳愛里 西島秀俊 373 潮騒 375 掌 378 対
 馬 383 啓 384 紅 389 四方 入水 390 後肢 391 山路 早よ 392 陽炎
 393 お母ア 394 春蚕 396 余肉 397 崖路 398 板片 利一 上海

(附録)

404 戯作 安愚楽鍋 外山 矢田部 405 浮雲 西鶴 重塔 406 変目伝 高野聖
 歌行燈 407 薄田 節 重右衛門 武藏野 408 何処 正宗 409 阿部 城 豊隆
 細雪 410 柳虹 春夫 和郎 411 黙阿弥 小山内 嘉樹 季吉 412 多喜二 直
 踊子 順三郎 重治 413 立原 築地 栄 國土 415 雄高 416 草行 芳美 隆
 武夫 草田男 健 隆明 417 康隆 実 由吉 国夫 昭 418 邦生 寛之 弥生子
 住井 富枝 大庭 三枝 水俣 出雲 入沢康夫 吉増 秀昭 419 誠広 枯木灘 夏樹
 詠美 夏生 420 千鶴子 金石範 421 楊逸 目取真 427 黄泉

(後見返し)

⑤容さず ⑥然レドモ 醒ネバ 倫敦

出典一覧表

※下記以外の教材、写真、図、地図はすべて自社作成。原則として、表記・句読点の訂正は除く。

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
①②	「うたうひと」(2013年公開)場面写真	写真						一般社団法人サイレントヴォイス
7	フェルメール「牛乳を注ぐ女」	写真						アフロ 14584744
8	光の窓	国語教材	『幼年 水の町』	52	小池昌代	松岳社	2017	(下欄参照)
原典P52～P56を採録した。								
10	パラフィン紙の包装	写真						アフロ 66563343
11	フェルメール「手紙を書く婦人と召使い」	写真						アフロ 66320914
13	(顔) 小池昌代	写真						時事通信フォト05326447
14	言葉の痕跡	国語教材	『群像 第79巻 第2号』	420	すんみ	講談社	2024	(下欄参照)
原典P420～P421を採録した。								
18	(顔) すんみ	写真						すんみ
19	山月記の碑	写真						横浜学園 中島敦の会
20	山月記	国語教材	『中島敦全集』第1巻	153	中島 敦	筑摩書房	1976	(下欄参照)
原典P153～P160を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。/P157の七言律詩に書き下し文を加えた。								
31	中島敦の原稿(『弟子』の冒頭部分)	写真						神奈川近代文学
32	(顔) 中島敦	写真						横浜学園 中島敦の会
34	「山月記」と「人虎伝」を読み比べる	国語教材	『国訳漢文大成 文学部 第十二巻 晋唐小説』	唐代小説 原文196	李景亮	国民文庫刊行会	1955	(下欄参照)
原典P196L1～L7(「…其適。」まで)を参照のうえ、編集委員会で作成した書き下し文と現代語訳を採録した。								

36	あの朝	国語教材	『ことばのポトラック』	334	角田光代	春風社	2012	(下欄参照)
原典P334～P341を採録した。								
43	(顔) 角田光代	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P210115000619
46	月と虎	イラスト						カシワイ
47	すももの花	写真						アマナイメー ジズALMWX518M
48	詩と感情生活	国語教材	『鮎川信夫著作集』	349	鮎川信夫	思潮社	1975	(下欄参照)
原典P349L10～P352L15を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P349L15「詩が何の役に…ならない、」→「詩が何の役に…ならない。」／P351L9「洛東城東」→「洛陽城東」								
53	(顔) 鮎川信夫	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P170425001712
55	言葉の池をつなぐ	国語教材	『中継地にて 回送電車 IV』	186	堀江敏幸	中央公論新社	2023	(下欄参照)
原典P186～P189を採録した。								
58	(顔) 堀江敏幸	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P191216000665
61	ヌヌマチガマ	写真						アフロ 23606889
62	山椒魚	国語教材	『井伏鱒二全集』第1巻	3	井伏鱒二	筑摩書房	1964	(下欄参照)
原典P3～P11を採録した。								
65	すずめの稗草(写真)	写真						NNP 0036A45278
65	すずめの稗草(図版)	イラスト						武田真由美
67	みずすまし(アメンボ)	写真						NNP 0110A05727
73	(顔) 井伏鱒二	写真						時事通信フォト0000625862
75	沖縄の手記から	国語教材	『足摺岬・沖縄の手記から』	75	田宮虎彦	新潮社	1980	(下欄参照)
原典P75下段L19～P85、P138～P140上段L20を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。梗概の部分は、編集委員会で書き下ろした。／P76上段L8「沖縄の娘だとすぐわかる」→削除／P82下段L11～17「私は眠れないままに…重なっていくように思えた。」→削除／P138上段L1～3「沖縄方面根拠地隊壕には、…かくれていた。」→削除／P138上段L11～19「六名いた…								

	整備兵たちであった。」→削除／P138下段L19～P139上段13「だが、私たちが…聞こえて来るように思えた。」→削除							
77	カンテラ	イラスト						杉本一文
78	壕の入り口（沖縄県伊原第一外科壕）	写真						アフロ 20596936
79	旧海軍司令部壕	写真						アフロ108607
83	ガジュマル	写真						アフロ 83906243
85	手榴弾	写真						沖縄県平和祈 念資料館
88	慶良間列島	写真						アフロ3444940
89	モンペ	イラスト						杉本一文
91	火炎放射器	写真						沖縄県平和祈 念資料館 沖縄戦米軍記 録写真227
94	（顔）田宮虎彦	写真						時事通信フォ ト 0000915327
96	山椒魚と女の子	イラスト						カシワイ
97	朔太郎の書斎（萩原朔太郎記念館）	写真						時事通信フォ ト0001742043
97	萩原朔太郎とマンドリン	写真						水と緑と詩の まち前橋文学 館
98	鋏	国語教材	『よいひかり』	30	三角みづ紀	ナナロク社	2016	
99	（顔）三角みづ紀	写真						三角みづ紀
100	竹	国語教材	『萩原朔太郎』第1巻	21	萩原朔太郎	筑摩書房	1975	
101	（顔）萩原朔太郎	写真						日本近代文学 館 P0002557
102	永訣の朝	国語教材	『新校本 宮澤賢治全集』第2巻	138	宮澤賢治	筑摩書房	1995	（下欄参照）
	原典P138～P140を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P140L18～19「どうかこれが天上のアイスクリームになつて／おまへとみんななどに聖き資糧をもたらずやうに」→「どうかこれが兜率の天の食に変つて／やがてはおまへとみんななどに／聖い資糧をもたらずことを」							
105	（顔）宮澤賢治	写真						日本近代文学 館 P0002873
107	『春と修羅』の表紙	写真						日本近代文学

								館 P0003802
107	(顔) 妹トシ	写真						林風舎
107	「永訣の朝」の原稿	写真						宮沢賢治記念館
107	羅須地人協会(岩手県)	写真						アマナイメー ジズ 25017000363
108	みづうみの氷は解けて…	国語教材	『島木赤彦全歌集』	304	島木赤彦	岩波書店	1986	
108	海恋し潮の遠鳴り…	国語教材	『現代の短歌』	36	与謝野晶子	講談社	1991	
108	白埴の瓶こそよけれ…	国語教材	『長塚節歌集』	132	長塚節	岩波書店	2014	
108	曼珠沙華一むら燃えて…	国語教材	『木下利玄全歌集』	171	木下利玄	岩波書店	2020	
108	曼珠沙華	写真						アフロ 21285485
109	葛の花 踏みしだかれて…	国語教材	『現代の短歌』	85, 86	釈 迢空	講談社学術文庫	1991	
109	ずぶ濡れのラガー奔るを…	国語教材	『塚本邦雄歌集』現代歌人文庫①	10	塚本邦雄	国文社	1988	
109	売りにゆく柱時計が…	国語教材	『現代の短歌』	36	寺山修司	講談社学術文庫	1991	
109	たとへば君 ガサッと落葉…	国語教材	『現代の短歌』	418	河野裕子	講談社学術文庫	1991	
109	あまつぶがにはかに沁みて…	国語教材	『リリカル・アンドロイド』	132	荻原裕幸	書肆侃侃房	2020	
109	葛の花	写真						アフロ 100088051
110	線を引くページ破れる…	国語教材	『サラダ記念日』	29	俵万智	河出書房新社	1989	
110	ゴッホでもミレーでもない…	国語教材	『サイレントと犀』	21	岡野大嗣	書肆侃侃房	2014	
110	冬の駅ひとりになれば…	国語教材	『てのひらを燃やす』	9	大森静佳	KADOKAWA	2018	
111	(顔) 島木赤彦	写真						日本近代文学館P0001735
111	(顔) 与謝野晶子	写真						日本近代文学

								館P0003075
111	(顔) 長塚節	写真						日本近代文学館P0002435
111	(顔) 木下利玄	写真						日本近代文学館P0000758
111	(顔) 釈迦空	写真						日本近代文学館P0000872
111	(顔) 塚本邦雄	写真						塚本青史
111	(顔) 寺山修司	写真						時事通信フォト 0000628173
111	(顔) 河野裕子	写真						永田和宏
111	(顔) 萩原裕幸	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P150604001423
111	(顔) 俵万智	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P181112000255
111	(顔) 岡野大嗣	写真						岡野大嗣
111	(顔) 大森静佳	写真						大森静佳
112	与謝野晶子と与謝野鉄幹	写真						日本近代文学館P0003081
112	みだれ髪	写真						日本近代文学館P0004369
112	君死にたまふことなかれ(冒頭)	写真						日本近代文学館P0004371
112	与謝野晶子の生家跡	写真						アフロ 83888315
113	言葉に対する慎み	国語教材	『學鑑 第120巻 第1号』	28	永田和宏	丸善出版	2023	(下欄参照)
	原典P28下段L5~P29を採録した。							
116	(顔) 永田和宏	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P201008000803
119	漱石の円熟時代(岡本一平「漱石八態」より)	写真						川崎市岡本太郎美術館
120	こころ	国語教材	『漱石全集』第6巻	234	夏目漱石	岩波書店	1966	(下欄参照)

	原典P234L5～P269L14〔「下 先生の遺書」三十五～四十九節〕を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／節を示す数字は全て削除した。／P256L11「悲しい事に私は片眼でした。」→削除／〔教材採録部分の前後のあらすじは、編集委員会の書き下ろし。〕							
120	鎌倉の海水浴場	写真						アフロ5224516
136	明治末の本郷三丁目付近（明治30年代）	写真						毎日新聞社 P19950726dd1d dlphj714000
150	（顔）夏目漱石	写真						日本近代文学館 P0002499
152	「こころ」上と下を読み比べる	国語教材	『漱石全集』第6巻	18	夏目漱石	岩波書店	1966	（下欄参照）
	原典P18L3（「先生の…」から）～P20L9〔「上 先生と私」六節〕を採録した。							
154	襖と男性	イラスト						カシワイ
155	民話ゆうわ座（第四回「『食わず女房』を考える」）	写真						せんだいメディアテーク
156	文学のふるさと	国語教材	『坂口安吾全集』第14巻	323	坂口安吾	筑摩書房	1990	（下欄参照）
	原典P323～P331を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P326L10～P328L4「晩年の芥川龍之介…創りだすことはないでしょう。」→削除／P329L1「ぬばたまのなにかと人の問ひしとき露と答へてけなましものを」→「白玉の何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを」（岩波書店刊『日本古典文学大系「竹取物語 伊勢物語 大和物語」』によった）							
157	『赤頭巾』（ウィリアム・ヘンリー・マージェットソン）	写真						アマナイメー ジズ 22040242096
159	河鍋暁斎筆『暁斎能画図式』より「鬼瓦」部分	写真						河鍋暁斎記念 美術館
160	『伊勢物語絵巻』（芥川）	写真						東京国立博物 館（DNP） C0028775
161	『伊勢物語絵巻』（芥川）	写真						東京国立博物 館（DNP） C0028776
165	（顔）坂口安吾	写真						朝日新聞フォ トアーカイブ P170804001101
167	「物語り」について	国語教材	『他なる映画と 2』	244	濱口竜介	インスクリプ	2024	（下欄参照）

								ト
	原典P244～P248を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P244題名「物語りについて」→「『物語り』について」／P245L2「(PUMPQUAKES' 二〇一九年)」→削除。／P245L18「変更してしまう」→「変更したりしてしまう」／P246L9「物語り」→「『物語り』」／P247L4「あいたくて～」→「あいたくて ききたくて 旅にでる」／P247L9「帰ってこれたのだと」→「帰ってこられたのだと」／P248L3「三一四一三一五頁」→削除。							
173	(顔) 濱口竜介	写真						ゲッティイメージズ 1660915906
177	指示を出す安部公房	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P190814000850
178	鞆	国語教材	『笑う月』	129	安部公房	新潮社	1984	(下欄参照)
	原典P129～P136を採録した。							
183	(顔) 安部公房	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P111004168358
185	満州	写真						時事通信フォト0014347621
185	映画「砂の女」	写真						草月会
185	ワープロに向かう安部公房	写真						日本ユニ・エージェンシー
185	安部公房スタジオ	写真						日本ユニ・エージェンシー
186	橋	国語教材	『カフカ短篇集』	219	フランツ・カフカ 池内紀 訳	岩波文庫	1987	(下欄参照)
	原典P219～P220を採録した。							
187	フランツ・カフカ	写真						ユニフォトプレス uniP_3.2635706
188	隣人運	国語教材	『東京新聞』(夕刊) 2024年4月27日		絲山秋子	中日新聞社	2024	(下欄参照)
	「文化」欄(「月刊掌編小説」)の全文を採録した。							
189	ケツァール	写真						アフロ 201188522

189	ツメバケイ	写真						アフロ 67939601
195	ノドアカハチドリ	写真						アフロ 67219803
195	アカフトオハチドリ	写真						アフロ 71186391
196	(顔) 絲山秋子	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P170914000428
199	柿本人麻呂歌碑 1	写真						アフロ 24363361
199	柿本人麻呂歌碑 2	写真						アマナイメー ジズ 22456006317
200	国語から旅立って	国語教材	『高校生と考える日本の 論点2020-30』	248	温又柔	左右社	2020	(下欄参照)
原典P251～P258を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P253L3小見出し「ひらがなの出会い」→削除。／P255L12小見出し「自分だけの言葉を捕まえる」→削除。／P256L18「キモい」→「ヤバい」／P256L19「キモいのか」→「ヤバいのか」／P257L7「ひとの言葉」→「他人の言葉」								
207	(顔) 温又柔	写真						温又柔
209	書かれた風景の中へ	国語教材	『読書のすすめ 第10 集』	66	リービ英雄	岩波書店	2005	(下欄参照)
原典P68L9～P73を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P68L10「西洋文学をめぐる諸定説を知らなかったが、もちろん、日本文学についての常識は、誰にも教わったこともなく」→「西洋文学をめぐる諸定説も知らなかったが、もちろん、日本文学についての常識も、だれにも教わったことはなく」／P69L6「母語においては…可視的に意識しながら、」→削除／P70L8「ダブリンでもなくパリでもない、ミシシッピーからかぎりなく遠い、」→削除／P70L11「坂道の角近くに」→「坂道の角近くの」／P71L2「奈良の日吉館に一泊して」→「奈良の旅館に一泊して」／P71L3「岩波文庫の」→「文庫本の」／P71L4「岩波文庫の」→「文庫本の」／P71L6「二年間の日本語の読み書きを」→「二年間日本語の読み書きを」／P72L11「のどかな風景は」→「のどかな風景に」								
213	大和三山	写真						アマナイメー ジズ 10922006901
214	(顔) リービ英雄	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P170221000355
215	梶井基次郎「桜の樹の下には」の草稿	写真						梶井久子

216	檸檬	国語教材	『梶井基次郎全集』第1巻	7	梶井基次郎	筑摩書房	1966	(下欄参照)
原典P7～P13を採録した。								
216	蓄音器(円盤式蓄音機マリーフォン)	写真						東京都江戸東京博物館 90361411
218	丸善(1884年)	写真						毎日新聞社 P19950726dd1d d5phj254000
218	香水壘の香水壘(フランス産)	写真						海の見える杜美術館
219	煙管(藍羅紗煙管筒)	写真						東京都江戸東京博物館 93200956
225	(顔) 梶井基次郎	写真						日本近代文学館P0000896
227	梶井基次郎——人と作品	国語教材	『檸檬』	243	相馬庸郎	角川文庫	2013	(下欄参照)
原典P247L8～P248L6、P250L7～P250L15を採録した。								
228	真の気持ちはその逆	国語教材	『生きて行く私』	109	宇野千代	角川文庫	1996	(下欄参照)
原典P112L3(「梶井の宿は、…」から)～P113L15を採録した。梗概の部分は、編集委員会で書き下ろした。								
230	最後のドッジボール	国語教材	『恐竜時代が終わらない』	159	山野辺太郎	書肆侃侃房	2024	(下欄参照)
原典P160～P177を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。/P166L11「四十」→「四十代」								
242	(顔) 山野辺太郎	写真						山野辺太郎
244	レモン・記号・男性	イラスト						カシワイ
245	小諸城址三の門	写真						アフロ 26021212
246	夏の姿	国語教材	『木坂涼詩集』	91	木坂 涼	思潮社	1997	
247	(顔) 木坂涼	写真						木坂涼
248	帰途	国語教材	『田村隆一全詩集』	70	田村隆一	思潮社	2000	
249	(顔) 田村隆一	写真						時事通信フォト0000868392
250	小諸なる古城のほとり	国語教材	『藤村全集』第一巻	237	島崎藤村	筑摩書房	1966	
251	(顔) 島崎藤村	写真						日本近代文学館P0001756

252	曳かれる牛が辻でずつと…	国語教材	『碧梧桐俳句集』	274	河東碧梧桐	岩波書店	2011	
252	咳をしても…	国語教材	『尾崎放哉句集』	91	尾崎放哉	岩波文庫	2007	
252	花衣ぬぐやまつはる…	国語教材	『現代の俳句』	71	杉田久女	講談社	1993	
252	金剛の露ひとつぶや…	国語教材	『現代の俳句』	134	川端茅舎	講談社	1993	
253	水枕ガバリと寒い…	国語教材	『現代の俳句』	144	西東三鬼	講談社	1993	
253	みづみづしセロリを噛めば…	国語教材	『日野草城全句集』	377	日野草城	沖積舎	1996	
253	鮫鱈の骨まで凍てて…	国語教材	『現代の俳句』	209	加藤楸邨	講談社	1993	
253	白葱のひかりの棒を…	国語教材	『現代の俳句』	470	黒田杏子	講談社	1993	
253	揚雲雀空のまん中…	国語教材	『静かな水』	15	正木ゆう子	春秋社	2002	
253	鮫鱈	写真						アフロ 108428128
253	揚雲雀	写真						アフロ 148165232
254	うごかざる一点がわれ…	国語教材	『名句の所以』	35	石田郷子	毎日新聞出版	2018	
254	菜の花を挿すか茹でるか…	国語教材	『蒙古斑』	40	權未知子	角川書店	2000	
254	秋風や結び目固き…	国語教材	『馥郁』	16	日下野由季	ふらんす堂	2018	
255	(顔) 河東碧梧桐	写真						日本近代文学館P0001224
255	(顔) 尾崎放哉	写真						日本近代文学館P0000797
255	(顔) 杉田久女	写真						日本近代文学館P0003165
255	(顔) 川端茅舎	写真						日本近代文学館P0000998
255	(顔) 西東三鬼	写真						日本近代文学館P0003428
255	(顔) 日野草城	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P120306247158
255	(顔) 加藤楸邨	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P110405197400

255	(顔) 黒田杏子	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P100426000745
255	(顔) 正木ゆう子	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P170626000295
255	(顔) 石田郷子	写真						石田郷子
255	(顔) 權未知子	写真						毎日新聞社 P20180402dd1d d1phj242000
255	(顔) 日下野由季	写真						日下野由季
256	平気——正岡子規	国語教材	『俳句的生活』	224	長谷川 權	中公新書	2004	(下欄参照)
	<p>原典P224～P234L4を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／題名を「平気」→「平気——正岡子規」とした。／小見出しを削除し、削除した箇所を1行空きで示した。／1行空きを適宜詰めた。／P224L8「一九〇一年」→「一九〇一」／P224L10「『日本』」→削除／P224L13「『日本』で」→削除／P225L12～15「五月最後の…待っていた。」→削除／P226L14～15「子規が若くして…きたことになる。」→削除／P227L1～3「たしかに俳句の…証拠が出てきた。」→削除し、4行目の改行を改め1行目につなげる／P227L5「二〇〇二年」→「二〇〇二」／P227L5「増進会出版社版」→削除／P227L7「『子規の俳句』」→「句集」／P227L7「岩波」→削除／P227L8「虚子選『子規句集』」→「文庫本」／P227L9「一九四一年」→「一九四一」／P227L9「『子規句集』で」→削除／P227L11～12「この句数は…多いはずである。」→削除／P228L1～L2「一言でいうならば…選んでいる。」→削除／P228L5～8「青々と…土用干」→削除／P228L10「絶えず人いこふ夏野の石一つ」→削除／P228L12「ほろほるとぬかごこぼるる垣根哉」→削除／P228L14「黒きまで紫深き葡萄かな」→削除／P229L2「正岡子規」→削除／P229L4～L9「春雨の…成サズ」→削除／P229L11～P230L5「糞づまり…並べてみると、」→削除／P230L8「選句した『子規の俳句』を」→「選んだ句を」／P231L2～6「近代俳句の…3」→削除／P231L12～13「回想『君が絶筆』によると」→「回想録によると」</p>							
261	絶筆三句	写真						国立国会図書館WB41-61 (5コマ目)
262	晩年の子規	写真						松山市立子規記念博物館
263	(顔) 長谷川權	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P100929035602
265	子規庵	写真						アマナイメー ジズ 10002003708
265	ユニフォーム姿の子規	写真						日本近代文学館P0002781

265	従軍記者時代の子規	写真						日本近代文学館P0002784
265	正岡子規記念球場	写真						アフロ 12776899
267	アウシュビッツ強制収容所	写真						アフロ 12934158
268	空っぽの瓶	国語教材	『早稲田文学』	21	多和田葉子	早稲田文学会	2017	(下欄参照)
	原典P21～P23を採録。							
273	(顔) 多和田葉子	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P181115000667
273	(顔) 松永美穂	写真						松永美穂
275	クレールという女	国語教材	『遠い朝の本たち』	177	須賀敦子	ちくま文庫	2001	(下欄参照)
	原典P177～P185を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P178L13「岩波現代叢書というシリーズの」→「ある叢書の」／P178L15とP184L15の後の1行あきを詰める。／P179L2「例の岩波シリーズの一冊で、」→削除							
276	有栖川公園	写真						アマナイメー ジズ 10131074767
278	マウトハウゼン強制収容所(オーストリア)	写真						ユニフォトブ レス 25.2AW366X
283	(顔) 須賀敦子	写真						読売新聞社
285	舞台「父と暮せば」	写真						こまつ座
286	父と暮せば	国語教材	『新潮』	6	井上ひさし	新潮社	1994	(下欄参照)
	原典P6～P36を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P6L2～L3「しばらくして…の連打。」→削除／P6L4～L5「ーやがて…浮かび上がってくる。」→削除／P6L6「比治山の東側」→削除／P6L10～L11「旧式の…抱いている。」→削除／P7上段L5～L8「竹造は…隠れんさい。」／P8上段L1～下段L10「竹造(頷いて)…ほうじゃったか。」→削除／P8下段L11「ほいじゃが。」／P9上段L2「竹造 ドンドロさんは…やれうれし。」→削除／P9上段L7～L9「美津江 今朝…そりゃええのう。」→削除／P9下段L9～L14「美津江 木下さんも…備わつとるで。」→削除／P9下段L15～L17「ほいで…たべてつかあさい。」／P10上段L4「授業囑託」→「助手」／P10上段L6～7「竹造 授業囑託…助手のことじゃ。」→削除／P10上段L8「(なんども…分厚い)」→削除／P10上段L12～22「美津江 ピカの…竹造」→削除／P10下段L12～L13「弁当箱…洗い出す。」→「、」／P10下段L13「叩き」→「ハタキ」／P10下段L21～P11上段L1「美津江 木下さんは…おとったんたら！」→削除／P11下段L5～L6「、笑ういうたら…くらいなもんじゃ。」→削除／P11L17～L18「、なんせえ…じゃけえのう」→「じゃ」／P12上段L13～L21「竹造 木下さんを…ありやせんが。」→削除／P12下段L2「ほいじゃけえ、」→削除／P13上段L13～L14「うちを」→削除／P13上段L18～下段L2「晩の…いけんのです。」→削除／P13下段L5～L6「美津江は…ザクザクザク……。」→削除／P13下段L8～L10「音楽の…煙。」→削除／P13下段L11～P14上段L24「電球の下…戻ってこん、……」→削除／P14下段L1～P15下段L23「ねじり鉢巻の…詰めているが、」→「じゃこ味噌を作っている。作り上げて、二							

つの容器に分けて詰め始める。」／P17上段L11～L12「マッカーサーが…別じゃけえどね。」→削除／P17上段L23～P17下段L1「竹造 男ちゅうもんは…美津江」→削除／P17下段L3～P20上段L20「竹造 せえなら…ゆっくりと暗くなる。」→削除／P20下段L10～L15「……と、茶の間と…遠方の」→削除／P20下段L18～P21上段L4「竹造 いま降る雨は、…探しているうちに、」→削除／P21上段L13「（頭の上に…防ぎながら）」→削除／P21下段L6～L8「美津江 この雨で、…忘れ物か。」→削除／P21下段L10～22「竹造 どっか悪いんか…あれ？」→削除／P21下段L23「縁先に出て」→「竹造、縁先に出て」／P22上段L3～L4「まさか…行かんけえのう。」→削除／P22上段L11～L13「美津江 ああ、…せんかったか。」→削除／P22上段L15「木口の」→削除／P22上段L17～下段L6「美津江 ここにある。…なんじゃちゅうんじゃ。」→削除／P22下段L11～L12「竹造 いまからでも…美津江」→削除／P22下段L19～L20「竹造 むりを…じゃけえ、」→削除／P23上段L2「すっぺー…いけんで。」→削除／P23上段L20～P23下段L1「じゃけんど…つずまり、」→削除／P23下段L22～L24「竹造 ほんじゃ…いえとる。」→削除／P24上段L1～L3「話が…ようわからん。」→削除／P24下段L2～P25上段L9「女専で…改まって）」→削除／P25上段L12「美しゅうて、うちより」→削除／P25下段L21「……（かわいそうな）おとったん。」→「……かわいそうなおとったん。」／P26下段L7「、少しの便が…ついとったそうじゃ」→削除／P27上段L6「竹造 おお…美津江」→削除／P27上段L18～L19「、腹ばいに…なさっとった」→削除／P27下段L22～P28上段L1「くちべろが…山本さん。」→削除／P28下段L2～L4「竹造 どこへ…思う。」→削除／P28下段L17～P29上段L1「竹造 雨、雨、…暗くなって行く。」→削除／P29上段L3～L4「音楽が…明るくなると、」→削除／P29上段L10～L15「新聞紙を…積み上げられている。」／P30上段L1～L5「竹造 木下さんの…いうとったけえど。」→削除／P30上段L6「ほいなら…入れても、」→削除／P30上段L16～21「ほいで…沸かしちよぐが、」→「……」／P30上段L24～下段L4「竹造 そりゃええ。…あるそうじゃけえ。」／P30下段L5「（安心して）…ほいから」→削除／P30下段L10～L11「竹造 軽石は…買うてあります。」→削除／P30L14～21「竹造 ほいから…美津江」→削除／P31上段L3～L6「竹造 （舌なめずりして）…油揚げとじゃこ。」→削除／P31上段L8～L9「美津江 ほいで…竹造」→削除／P31上段L11「……」→削除／P31上段L13～P32上段L3「竹造 （いきなり）…ぼんぽこぼん」→削除／P32上段L17～L18「ほいも岩手へ…なさそうじゃな。」→削除／P34下段L6～L7「美津江（グー）…ちゃんぼんげ（グー）」→削除

309	(顔) 井上ひさし	写真						時事通信フォト0008706927
311	森鷗外の葉書(表)	写真						文京区立森鷗外記念館
311	森鷗外の葉書(裏)	写真						文京区立森鷗外記念館
312	舞姫	国語教材	『鷗外全集』第1巻	425	森 鷗外	岩波書店	1971	(下欄参照)
	原典P425～P447を採録した。							
313	『舞姫』の原稿	写真						跡見学園女子大学
313	『舞姫』の初出雑誌	写真						日本近代文学館 P0004723
315	19世紀末のウンテル・テン・リンテン	写真						ユニフォトプレスAKG55803
319	ウンテル・テル・リンテンのカフエ	写真						ユニフォトプレスAKG60390

321	マリエン教会	写真						ユニフォトプレス ALA_uniP_25. E E57YH
321	凱旋塔	写真						アマナイメー ジズ 27291000001
321	ブランデルブルク門	写真						アマナイメー ジズ 25801011276
321	ティーア・ガルテン (猷苑)	写真						時事通信フォ ト 0012095414
325	ヴィクトリア座 (1880 年当時)	写真						時事通信フォ ト jpp020711426
337	十九世紀後半のペテル ブルク	写真						ユニフォトプ レスAKG23070
341	19世紀末のクロステル 街	写真						ユニフォトプ レスAKG56072
346	(顔) 森鷗外	写真						日本近代文学 館 P0001139
348	本の海と船	イラスト						カシワイ
349	シェークスピア作、バ ズ・ラーマン監督「ロ ミオ+ジュリエット」 (1996年製作)	写真						サイネットフ ォト ABM111392949
350	演技する「私」	国語教材	『「私」をつくる 近代 小説の試み』	21	安藤宏	岩波書店	2015	(下欄参照)
原典P21～P24を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P21L10「(昭和十七年)」→削除／P23L4小見出し「『作者』 を演じるということ」→前行の1行空きとともに削除								
353	(顔) 安藤宏	写真						安藤宏
355	文学の未来	国語教材	『ヒューマニティーズ 文学』	138	小野正嗣	岩波書店	2012	(下欄参照)
原典P138L5～P145L12を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P138L6「思いつくままに適当に挙げるが、」 →削除。／P138L15～P139L16「たとえば、…発展させたりすることができる。」→削除。／P139L17「だがこれは…話ではな い。」→削除。／P140L8「くり返し述べてきたことだが、」→削除。／P140L10「たしかに…連なりでしかない。」→削除。／								

	P 141 L 3 「作品はある…とにかく、」→「作品はあるのだ。」／P 141 L 15 「はずだ」→削除。／P 141 L 16 「ここからも明らかのように、そしてすでに述べたように、」→削除。／P 141 L 16 「行為なのだ。」→「行為である。」／P 142 L 3 「もちろん…言わせてもらえば、」→削除。／P 142 L 10 「なんの意味があるのか。」の後で改行。／P 142 L 11 「そうではない、」→削除。／P 142 L 15 「しかし忘れてはいけないのは、」→削除。／P 142 L 15 「作品だけではないということだ。」→「作品だけではない。」／P 143 L 1 「まったく」→「まるで」／P 143 L 7 「読み出したら…本があるのはなぜか。」→削除。／P 143 L 10 「あの部分ではなくて…この文が、」→削除。P 143 L 17 「によって、そ」→削除。／P 144 L 3 「というの」→削除。／P 144 L 13 「向かえば」→「向かい合えば」／P 144 L 15 「そのことによって…貧しくはならない。」→削除。／P 145 L 3 「いまとここ」→「『いま』と『ここ』」							
362	(顔) 小野正嗣	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P150115001050
363	映画の可能性のために	国語教材	『誰も必要としていないかもしれない、映画の可能性のために—制作・教育・批評』	34	諏訪敦彦	フィルムアート社	2020	(下欄参照)
	P34L2～P44L7を採録し、指導上の配慮により、以下の修正を行った。／P34L3「私は仙頭、磯見両」→削除／P34L3～L4「仙頭氏は…ほうがいい」とか」→削除／P34L4「指摘をし」→「指摘を受け」／P34L4～L5「私は「わかりました」と…持ち帰り、また」→削除／P34L9「仙頭氏」→「プロデューサー」／P34L11「仙頭氏」→「プロデューサー」／P34L12「混乱してる」→「混乱している」／P34L15「柳演じる」→「柳愛里演じる」／P35L1～L5「たむらさんは…使用する。」→削除／P35L12「ダブってるから」→「ダブっているから」／P36L1「(おまけに…だった)。」→削除／P36L11～L18「カメラマンが…せめぎ合いなのだ。」→削除／P38L3～L5「予定された…覚悟していた。」→削除／P39L3～L18「あるいは…と言ったように。」→削除／P40L3～P41L18「今にして思うと…と思えた。」→削除／P42L5「だろう?と」→「だろうか」と／P42L6 一行空きを詰めた／P42L10「(*22)」→削除／P42L13「(*23)」→削除／P42L18「(*24)」→削除／P43L3「(*25)」→削除／P43L10「(*26)」→削除／P44L6「(*27)」→削除							
372	(顔) 諏訪敦彦	写真						朝日新聞フォトアーカイブ P190507000541
375	斜陽館	写真						アフロ 38239601
376	葉桜と魔笛	国語教材	『太宰治全集』3	214	太宰治	筑摩書房	1998	(下欄参照)
	原典P 214～P 222を採録した。							
376	島根県・日本海沿い	写真						アフロ 121338573
384	太宰筆跡「待ち待ちて…」	写真						津島園子
387	(顔) 太宰治	写真						日本近代文学館P0002246
389	弘前高校時代	写真						日本近代文学

								館P2197
389	銀座のバーにて	写真						林義勝
389	井伏鱒二との写真	写真						日本近代文学館P0002218
389	玉川上水	写真						朝日新聞フォトアーカイブP110313104538
390	蠅	国語教材	『定本 横光利一全集』 第一巻	187	横光利一	河出書房新社	1981	(下欄参照)
	原典P 187～P 195を採録した。							
398	(顔) 横光利一	写真						日本近代文学館 P0003042
400	川端康成と横光利一	写真						日本近代文学館 P0001044
400	岡本太郎と横光利一	写真						日本近代文学館 P0003047
400	『旅愁』	写真						日本近代文学館 P0003846
400	横光利一青春の碑	写真						アマナイメー ジズ 25053006236
402	「蠅」と映画	イラスト						カシワイ
405	坪内逍遙	写真						日本近代文学館P0000874
405	『小説神髓』	写真						日本近代文学館P0003697
405	二葉亭四迷	写真						日本近代文学館P0002736
405	『浮雲』	写真						日本近代文学館P0003772
406	樋口一葉	写真						日本近代文学館P0001093
406	『たけくらべ』	写真						アフロ 38380307
408	『吾輩は猫である』	写真						日本近代文学館P0008058

408	『ころ』	写真						日本近代文学館P0010687
410	『歯車』	写真						日本近代文学館P0002359
410	芥川龍之介	写真						日本近代文学館P0000082
412	川端康成	写真						日本近代文学館P0001087
412	『伊豆の踊子』	写真						日本近代文学館P0003057
414	(顔) 三島由紀夫	写真						朝日新聞フォトアーカイブP100604001760
414	『金閣寺』	写真						日本近代文学館P0003794
416	(顔) 松本清張	写真						朝日新聞フォトアーカイブP110616001957
416	『点と線』	写真						日本近代文学館P0003788
419	(顔) 村上春樹	写真						朝日新聞フォトアーカイブP190701002463
419	『ねじまき鳥クロニクル』	写真						新潮社
424	『瀬東綺譚』	写真						新潮社
424	『記憶の繪』	写真						筑摩書房
424	『春の庭』	写真						文藝春秋
424	『晩年』	写真						新潮社
424	『他人の顔』	写真						新潮社
424	『犬身(下巻)』	写真						朝日新聞出版
424	『新編 風の又三郎』	写真						新潮社
424	『愛国者たち』	写真						講談社
424	『詩とはなにか』	写真						思潮社
424	『俘虜記』	写真						新潮社
424	『死の棘』	写真						新潮社

424	『死者の奢り・飼育』	写真						新潮社
425	『高村光太郎詩集』	写真						岩波書店
425	『斎藤茂吉歌集』	写真						岩波書店
425	『ナイトフライト』	写真						書肆侃侃房
425	『それから』	写真						新潮社
425	『友情』	写真						新潮社
425	『ノルウェイの森』	写真						講談社
425	『モオツアルト・無常 という事』	写真						新潮社
425	『桜の森の満開の下』	写真						講談社
425	『死者の書』	写真						KADOKAWA
425	『冥途』	写真						筑摩書房
425	『樹影譚』	写真						文藝春秋
425	『号泣する準備はでき ていた』	写真						新潮社
426	『日本奥地紀行』	写真						平凡社
426	『海南小記』	写真						KADOKAWA
426	『エクソフォニー』	写真						岩波書店
426	『歯車 他二篇』	写真						岩波書店
426	『老妓抄』	写真						新潮社
426	『珍品堂主人 増補新 版』	写真						中央公論新社
426	『北原白秋詩集』	写真						新潮社
426	『飯田龍太全句集』	写真						KADOKAWA
426	『尾崎放哉全句集』	写真						筑摩書房
426	『霧のむこうに住みたい』	写真						河出書房新社
426	『あの頃』	写真						中央公論新社
426	『寺山修司全歌集』	写真						講談社
427	『夜叉ヶ池・天守物 語』	写真						岩波書店
427	『近代能楽集』	写真						新潮社
427	『エンジョイ・アワー ・フリータイム』	写真						白水社
427	『雁』	写真						新潮社
427	『春琴抄』	写真						新潮社

427	『久生十蘭短篇選』	写真						岩波書店
427	『人間・この劇的なもの』	写真						新潮社
427	『まいまいつぶろ』	写真						河出書房新社
427	『監督 小津安二郎 増補決定版』	写真						筑摩書房
427	『中原中也詩集』	写真						新潮社
427	『掌の小説』	写真						新潮社
427	『N・P』	写真						KADOKAWA
⑤	留学中の鷗外	写真						日本近代文学館P0002970
⑤	ベルリンの森鷗外記念館	写真						朝日新聞フォトアーカイブP170324001054
⑤	ドイツ留学時代の雑記帳	写真						文京区立森鷗外記念館
⑤	ハインリック・エドムント・ナウマン	写真						パブリック・ドメイン
⑥	留学直前の漱石	写真						日本近代文学館P0002489
⑥	K. Natsumeのサイン	写真						時事通信フォト0000976216
⑥	漱石が暮らしたロンドンの下宿	写真						時事通信フォト0001015949
⑥	夏目漱石 子規宛のクリスマスカード	写真						正岡庭園樹木医事務所・正岡子規研究所

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
- ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行年月日等を示す。
- ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や所有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

- 3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。
- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。
- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第 33 条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること
(別途契約を締結する場合を除く)。

備考 4 の内容について確認しました。

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	③	URL	自社	自社ページURL	コンテンツ一覧	別紙1添付
		二次元コード	自社	同上	同上	
2	8	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙2添付
3	14	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙3添付
4	20	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 山月記(音声) 漢字と語彙(クイズ)	別紙4添付
5	36	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙5添付
6	48	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙6添付
7	55	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙7添付
8	62	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 山椒魚(音声) 資料映像 山椒魚(動画) 漢字と語彙(クイズ)	別紙8添付
9	75	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 沖縄の手記から(音声) 漢字と語彙(クイズ)	別紙9添付
10	102	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 永訣の朝(音声) 作家紹介 宮澤賢治(動画)	別紙10添付
11	108	二次元コード	自社	自社ページURL	作家紹介 与謝野晶子(動画)	別紙11添付
12	113	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙12添付
13	120	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 ころも(音声) 作家紹介 夏目漱石(動画) 漢字と語彙(クイズ)	別紙13添付
14	156	二次元コード	自社	自社ページURL	作家紹介 坂口安吾(動画) 漢字と語彙(クイズ)	別紙14添付
15	167	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙15添付
16	178	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙16添付
17	188	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙17添付
18	200	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙18添付
19	209	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙19添付
20	216	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 檸檬(音声) 漢字と語彙(クイズ)	別紙20添付
21	230	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙21添付
22	252	二次元コード	自社	自社ページURL	資料映像 雲雀(動画)	別紙22添付
23	256	二次元コード	自社	自社ページURL	作家紹介 正岡子規(動画) 漢字と語彙(クイズ)	別紙23添付
24	268	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙24添付
25	275	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙25添付
26	312	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 舞姫(音声) 作家紹介 森鷗外(動画) 漢字と語彙(クイズ)	別紙26添付
27	350	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙27添付
28	355	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙28添付

29	363	二次元コード	自社	自社ページURL	漢字と語彙(クイズ)	別紙29添付
30	376	二次元コード	自社	自社ページURL	作家紹介 太宰治(動画) 漢字と語彙(クイズ)	別紙30添付
31	390	二次元コード	自社	自社ページURL	朗読 蠅(音声) 漢字と語彙(クイズ)	別紙31添付
32	404	二次元コード	自社	自社ページURL	小テスト 近現代の日本文学史(クイズ)	別紙32添付
33	422	二次元コード	自社	自社ページURL	「随筆」「詩」「短歌」「俳句」の創作のポイント (補足資料)	別紙33添付

(備考)

申請図書中に発行者が管理するウェブサイトのアドレス(二次元コードその他のこれに代わるものを含む。)を掲載する場合に、本表を以下のとおり作成する。

1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「番号」の欄は、複数のページ等に掲載されたウェブサイトのアドレスが同一のウェブサイトを参照させる場合、一つの番号にまとめて記入する。
- ② 「ページ」の欄は、ウェブサイトのアドレスの申請図書における掲載ページを示す。
- ③ 「種別」の欄は、URL、二次元コード等の別を示す。

2 「学習上の参考に供する情報」の欄については次のとおりとする。

- ① 「参照先」の欄には、発行者のページから参照させる学習上の参考に供するページを作成する団体名などを記入する。
- ② 「URL」の欄には、実際に参照させる学習上の参考に供するページのURLを記載する。なお、参照先が発行者の作成したページである場合は、「自社ページURL」と記入する。
- ③ 「概要」欄には、参照先における情報の内容を簡潔に記入する。

3 申請図書中のウェブサイトのアドレスが参照させるウェブサイトの画面を印刷した紙面には、対応する本表の番号を紙面右上に付記し、本表に添付すること。

4 学習上の参考に供する情報を示すウェブサイトが発行者において作成したページの場合、参照先のウェブサイトの画面を印刷した紙面を、本表に添付すること。その際、「備考」の欄に「別紙1添付」などと記載し、印刷した紙面右上に「別紙1」などと記入すること。

番号 1

書名入る

コンテンツ一覧 (PDF)

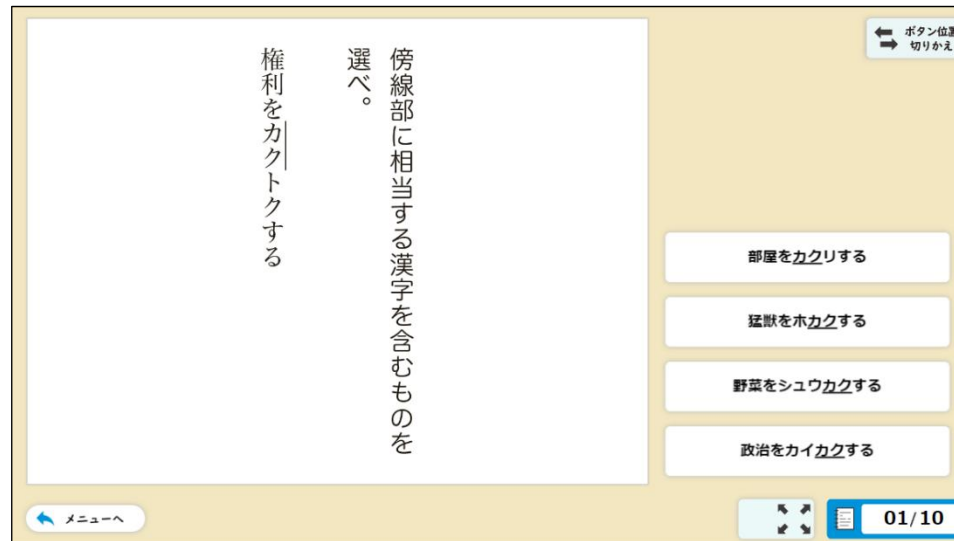
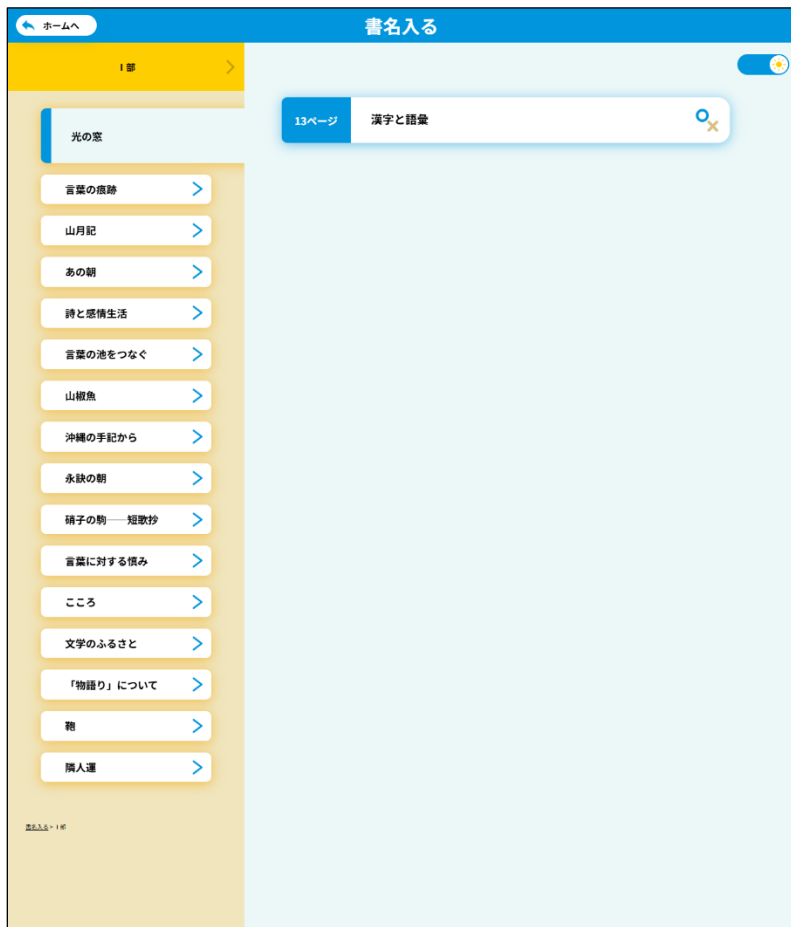
I 部 >

II 部 >

附録 >

コンテンツ一覧

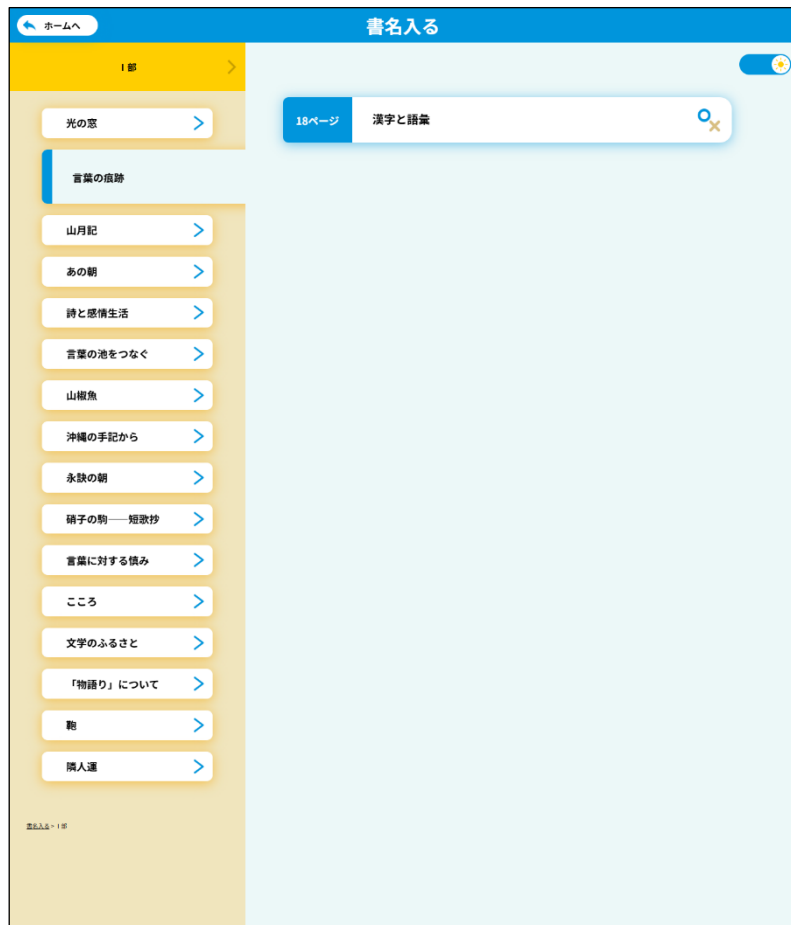
番号 2



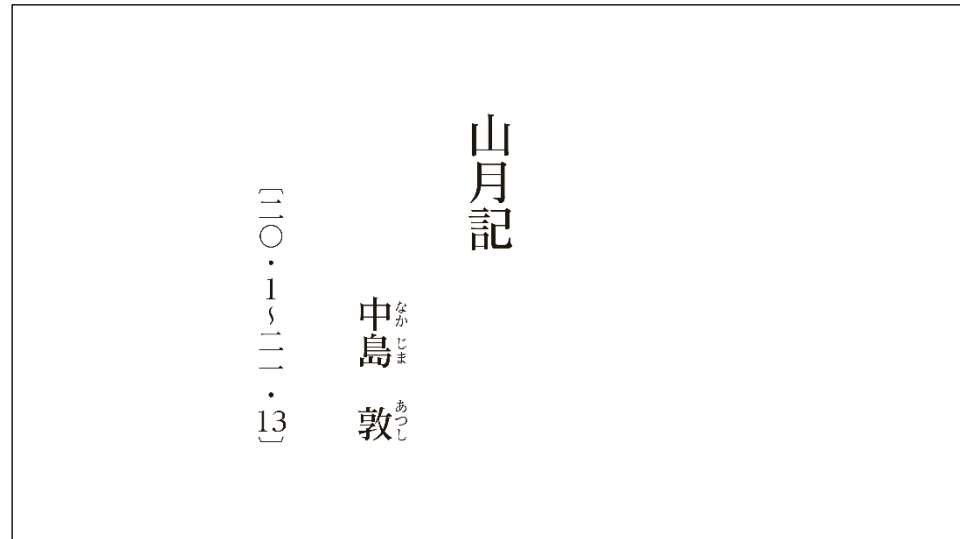
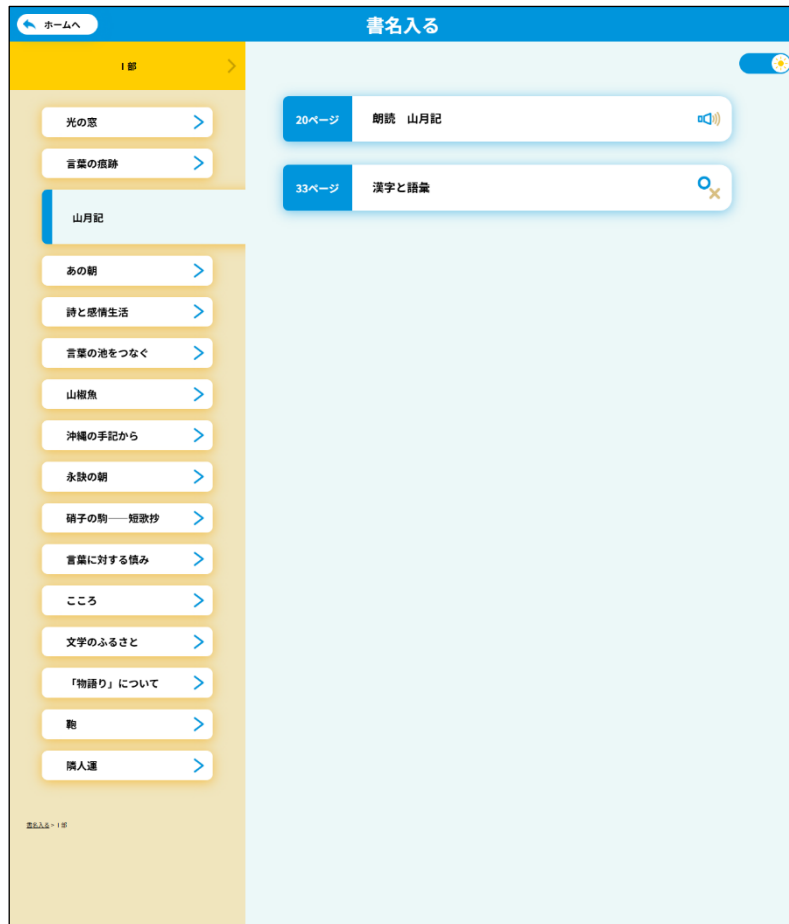
13
ページ
漢字と語彙
「クイズ」

* 全ての「漢字と語彙 [クイズ]」は同じ仕様であるため、
以降のハイライト画面は割愛する。

番号 3



番号 4



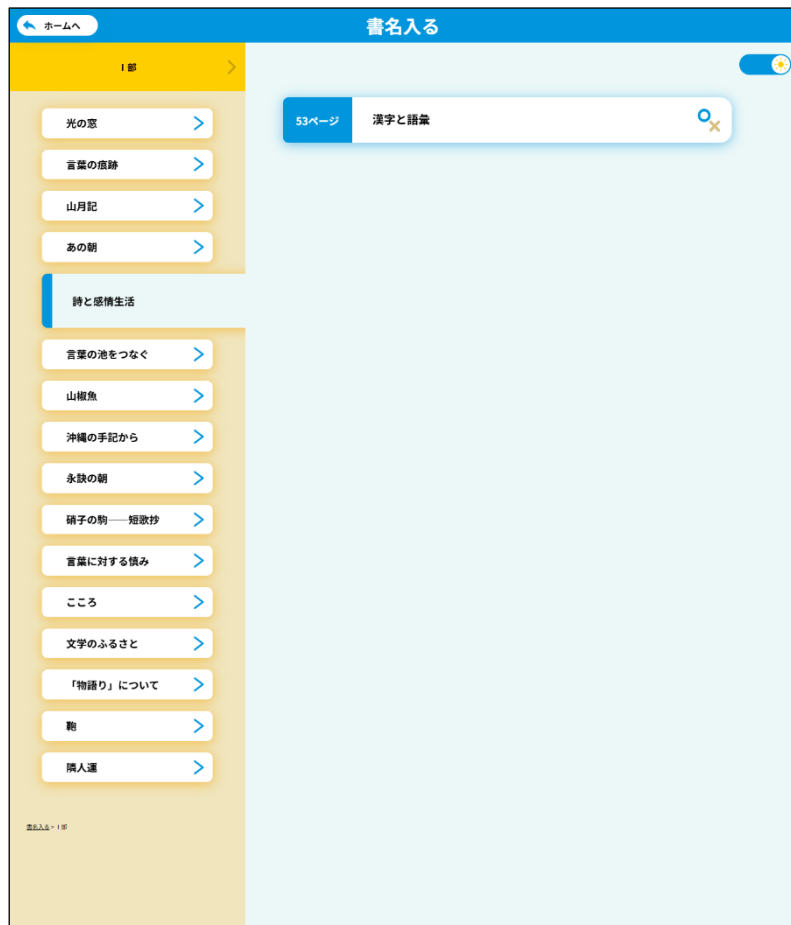
* 全ての「朗読 [音声]」は同じ仕様であるため、以降のハイライト画面は割愛する。

20
ページ
朗読
山月記
[音声]

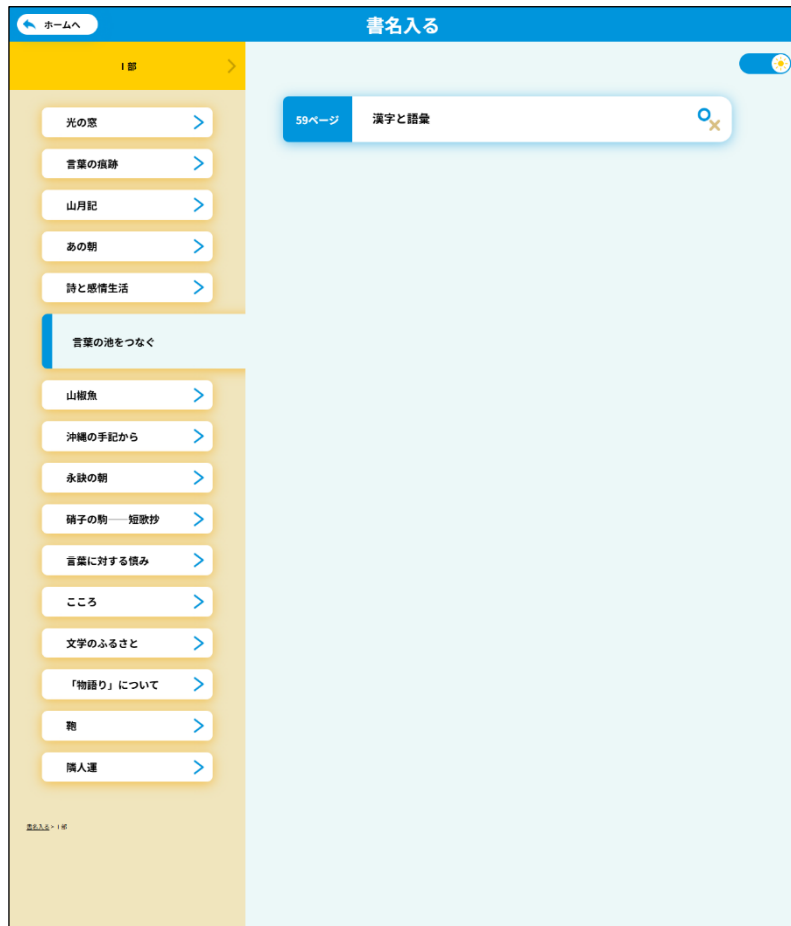
番号 5

The screenshot shows a mobile application interface for book registration. At the top, there is a blue header with a back arrow and the text "ホームへ" (Home) on the left, and "書名入る" (Enter Book Title) in the center. Below the header is a yellow bar with "1部" (Part 1) and a right arrow. A search bar is positioned below the yellow bar, containing the text "43ページ 漢字と語彙" (43 pages Kanji and Vocabulary) and a clear button. The main content area is a list of book titles, each with a right arrow. The titles are: 光の窓, 言葉の痕跡, 山月記, あの朝 (highlighted), 詩と感情生活, 言葉の池をつなぐ, 山椒魚, 沖縄の手記から, 永訣の朝, 硝子の駒—短歌抄, 言葉に対する憤り, こころ, 文学のふるさと, 「物語り」について, 靴, and 隣人運. At the bottom left, there is a small text "2025.10.10 10:00".

番号 6



番号 7



番号 8

ホームへ

書名入る

1部

- 光の窓 >
- 言葉の痕跡 >
- 山月記 >
- あの朝 >
- 詩と感情生活 >
- 言葉の池をつなぐ >
- 山椒魚**
- 沖縄の手記から >
- 永訣の朝 >
- 硝子の駒——短歌抄 >
- 言葉に対する懐み >
- こころ >
- 文学のふるさと >
- 「物語り」について >
- 靴 >
- 閑人運 >

62ページ 朗読 山椒魚

62ページ 資料映像 山椒魚

74ページ 漢字と語彙

22/22

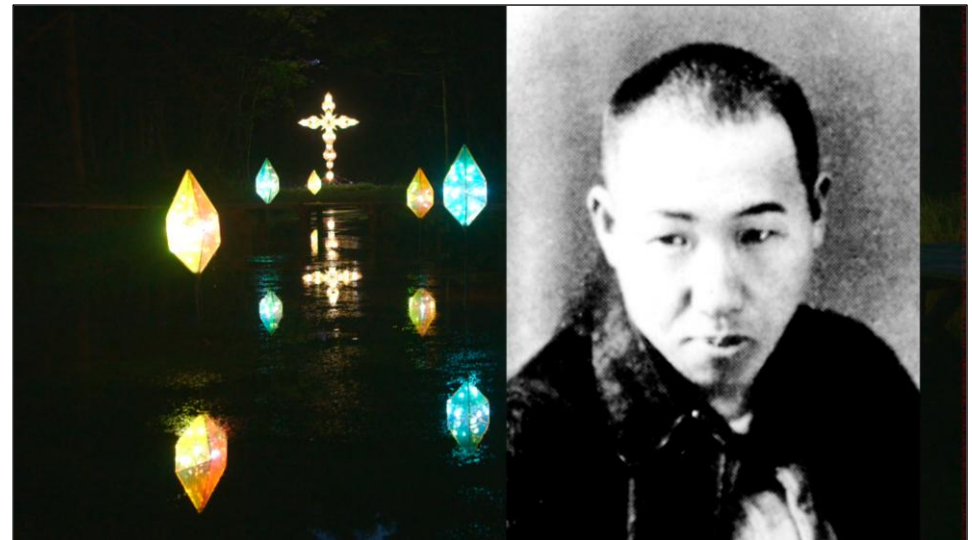


62ページ 資料映像 山椒魚「動画」

番号 9

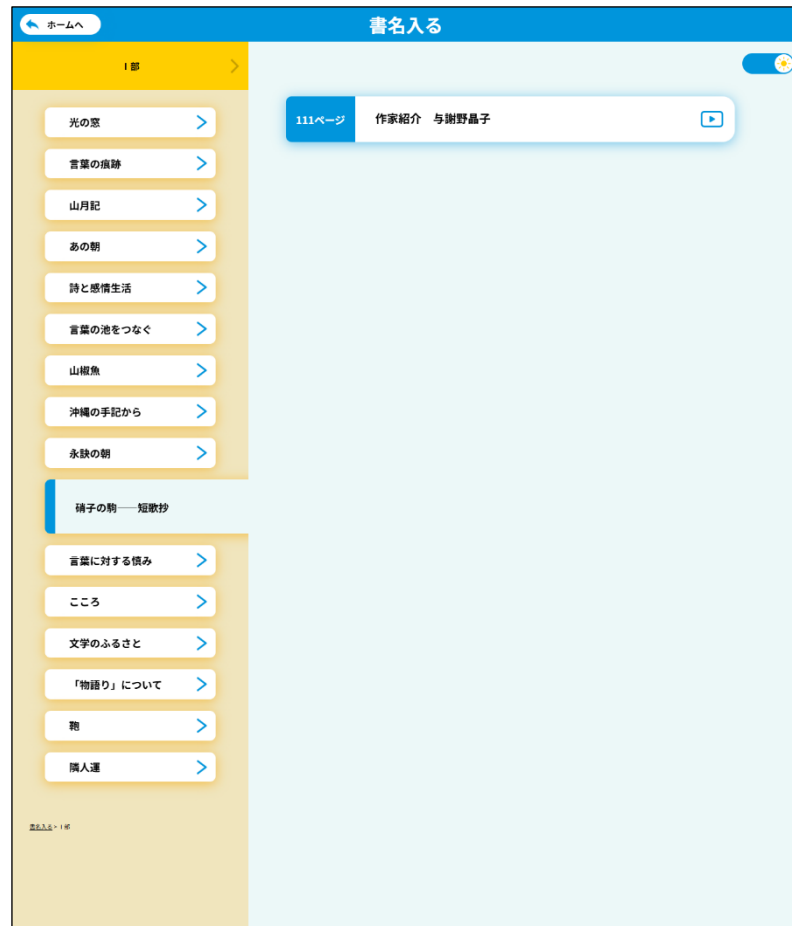
The screenshot shows a mobile application interface with a blue header bar containing a back arrow and the text "ホームへ" (Home) and "書名入る" (Enter Title). Below the header is a yellow sidebar with a list of book titles, each with a right-pointing arrow. The titles are: 光の窓, 言葉の痕跡, 山月記, あの朝, 詩と感情生活, 言葉の池をつなぐ, 山椒魚, 沖繩の手記から (highlighted in blue), 永訣の朝, 硝子の駒—短歌抄, 言葉に対する懐み, こころ, 文学のふるさと, 「物語り」について, 霧, and 隣人運. At the bottom left of the sidebar is the text "25/25/25/1/1". The main content area is light blue and contains two white cards with blue headers. The first card has a blue header "75ページ" and the text "朗読 沖繩の手記から" with a speaker icon. The second card has a blue header "95ページ" and the text "漢字と語彙" with a magnifying glass icon and a close button.

番号 10



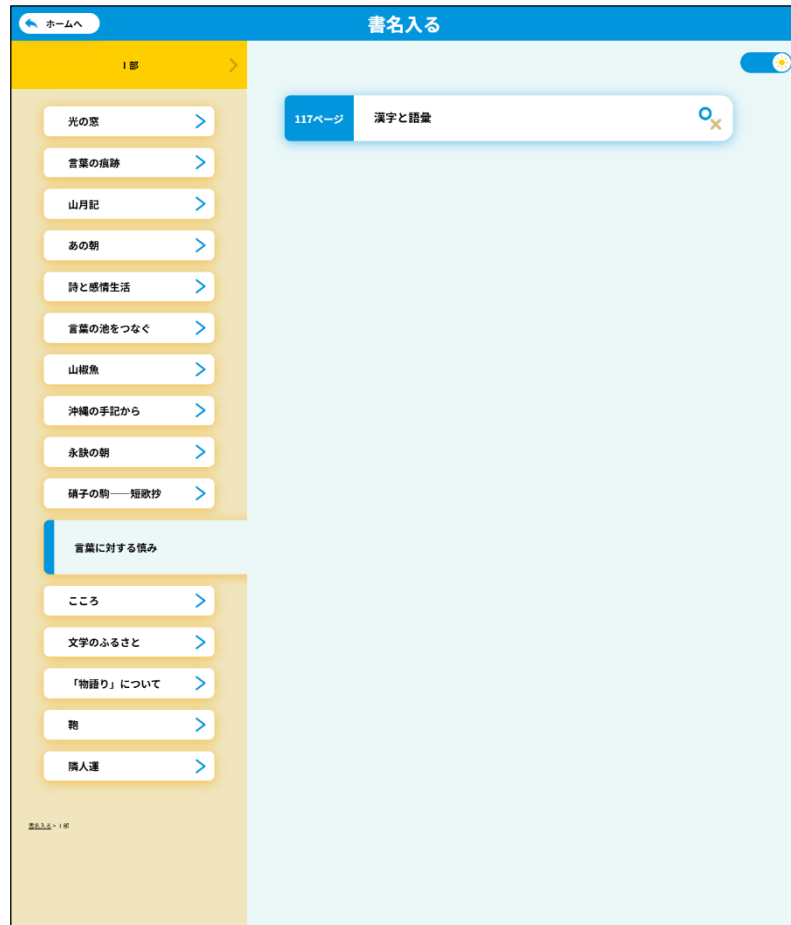
105
ページ
作家紹介
宮澤賢治
〔動画〕

番号 11



111
ページ
作家紹介
与謝野晶子
「動画」

番号 12

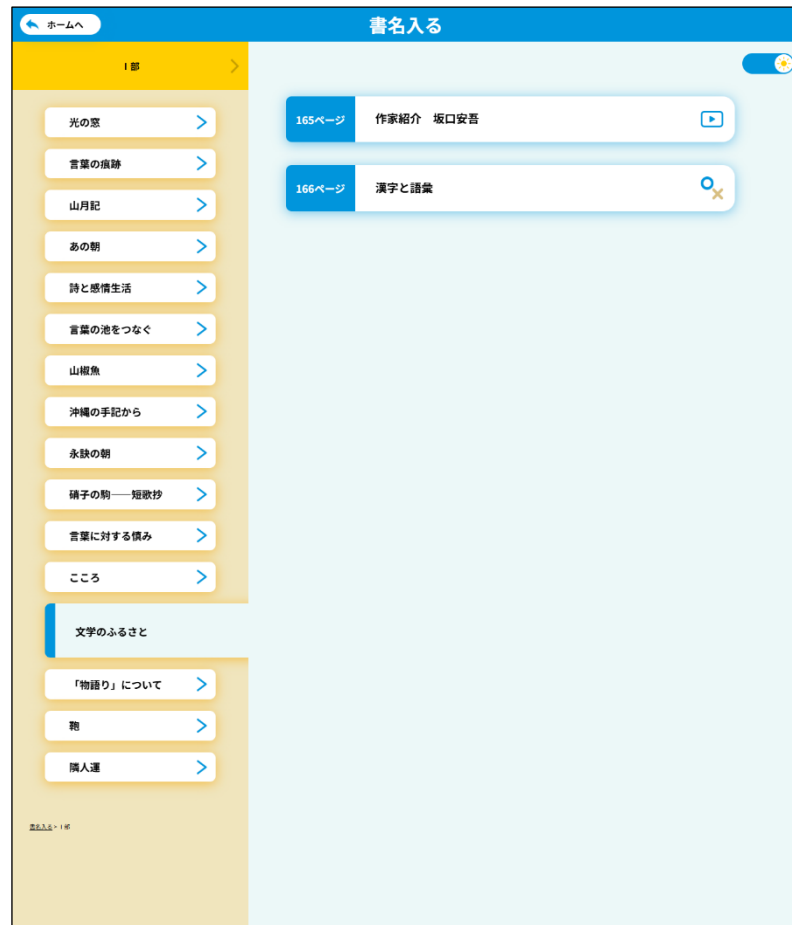


番号 13



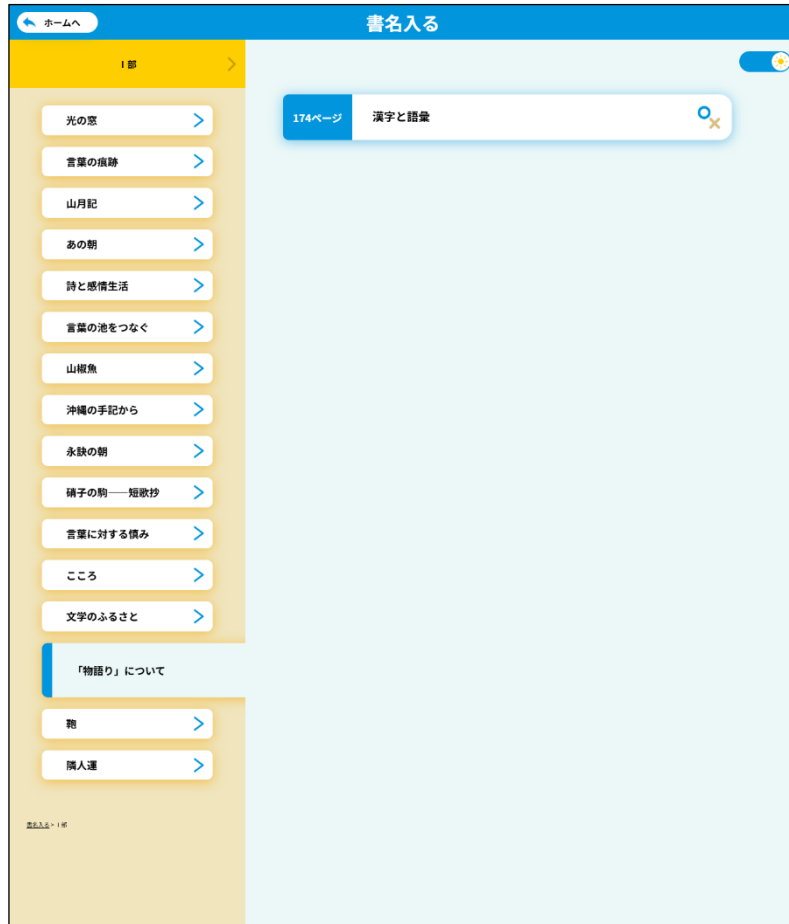
150
ページ
作家紹介
夏目漱石
[動画]

番号 14

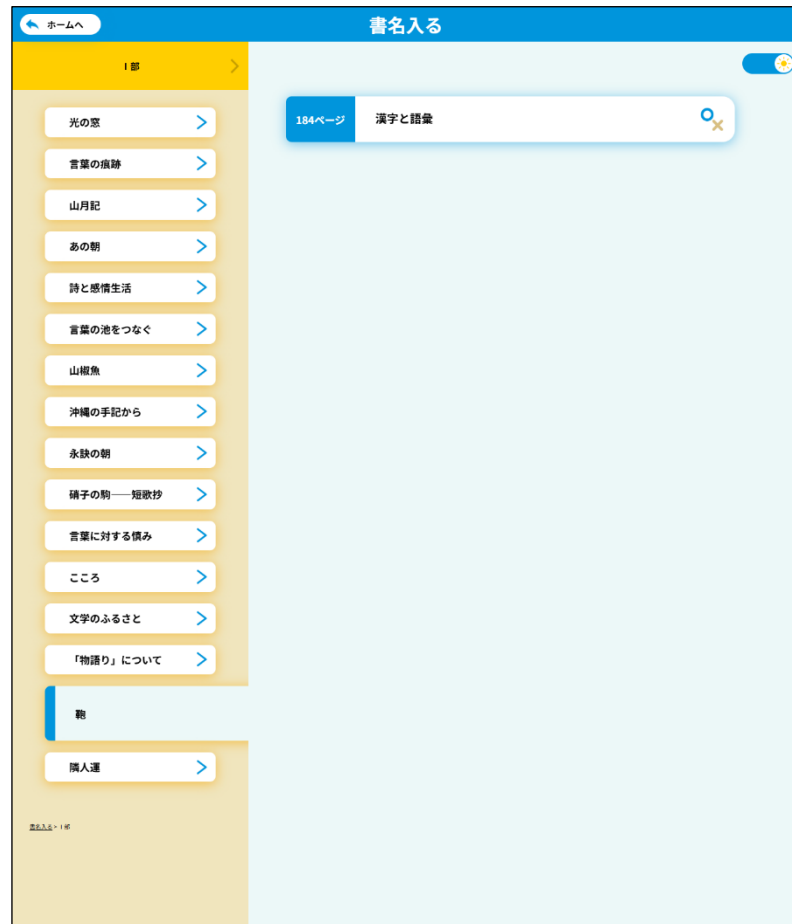


165
ページ
作家紹介
坂口安吾
[動画]

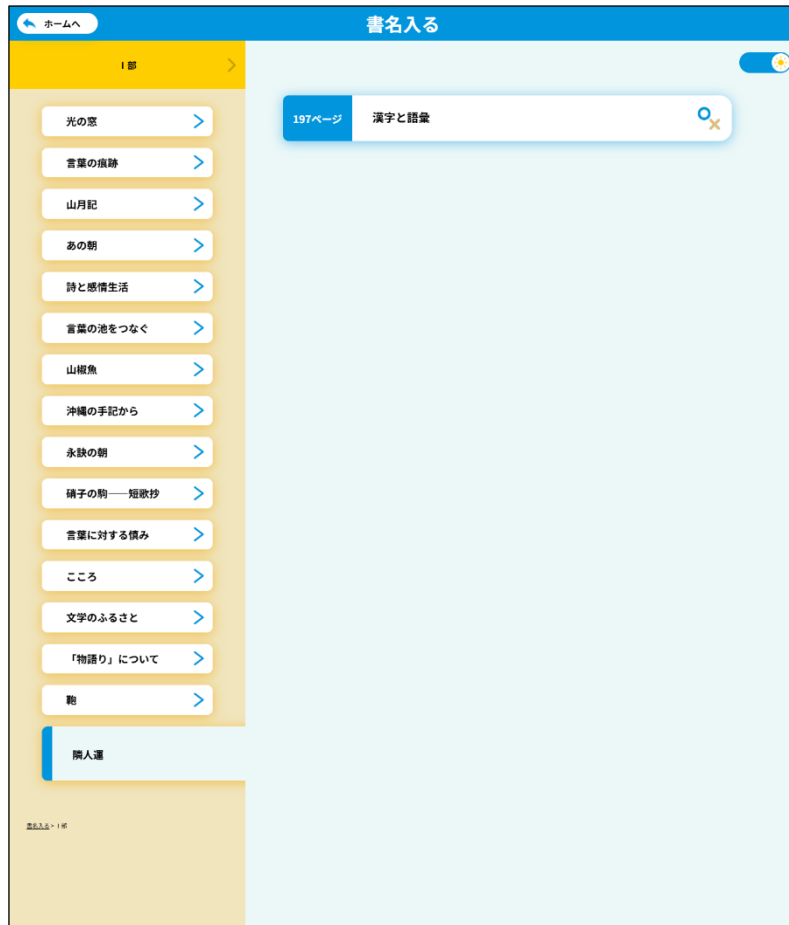
番号 15



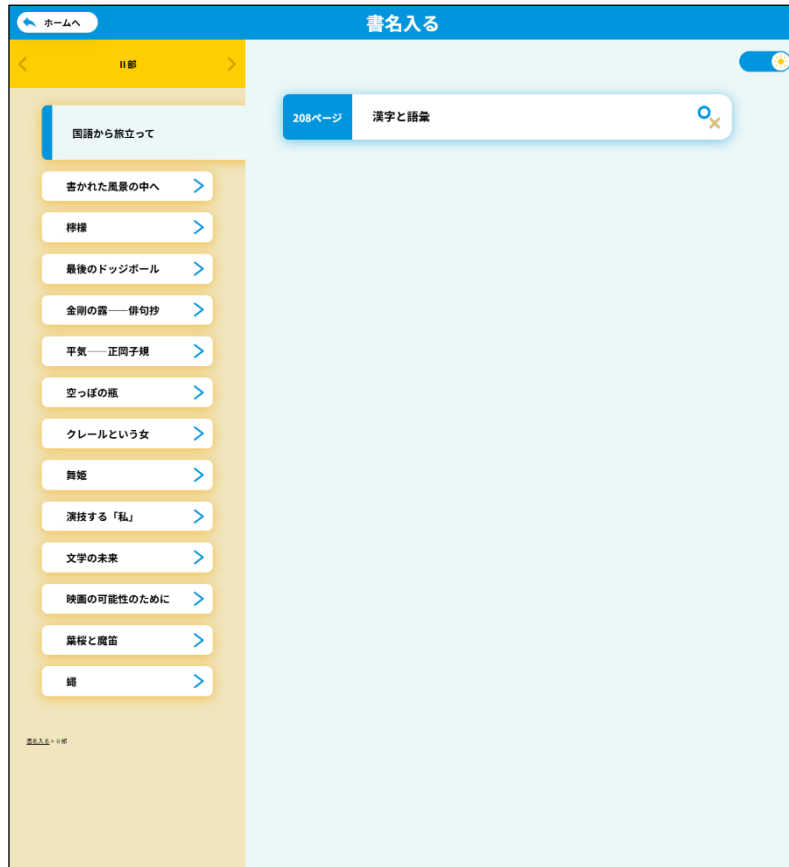
番号 16



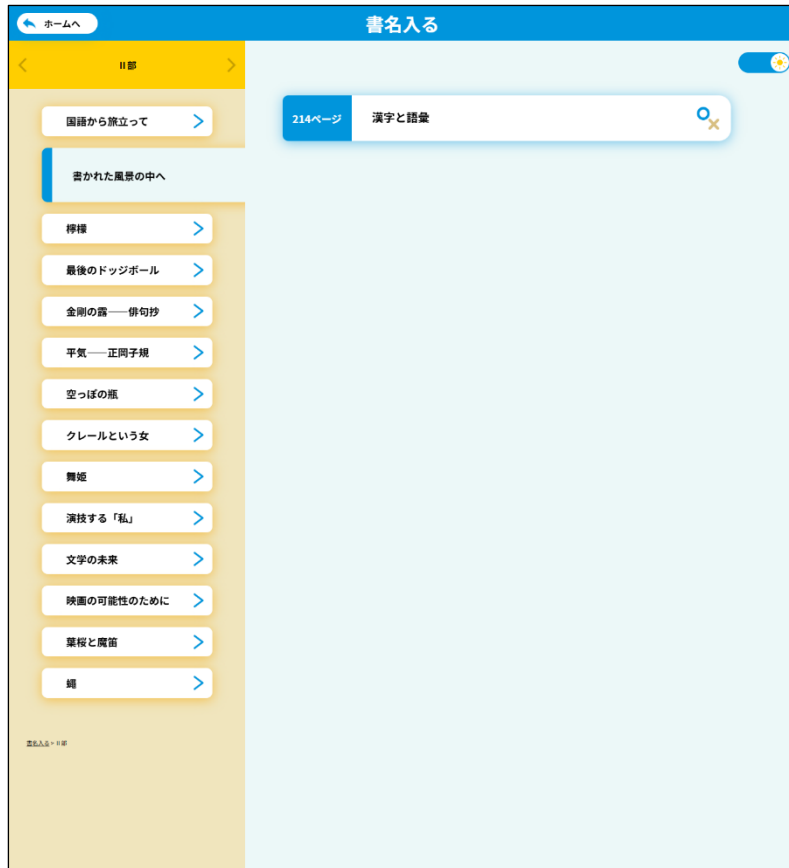
番号 17



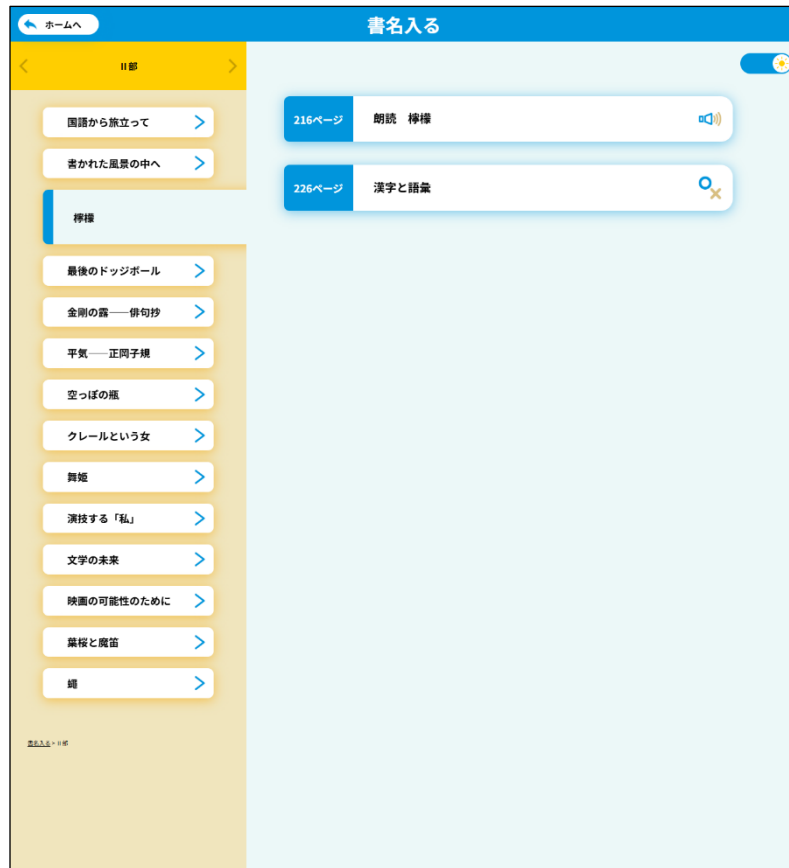
番号 18



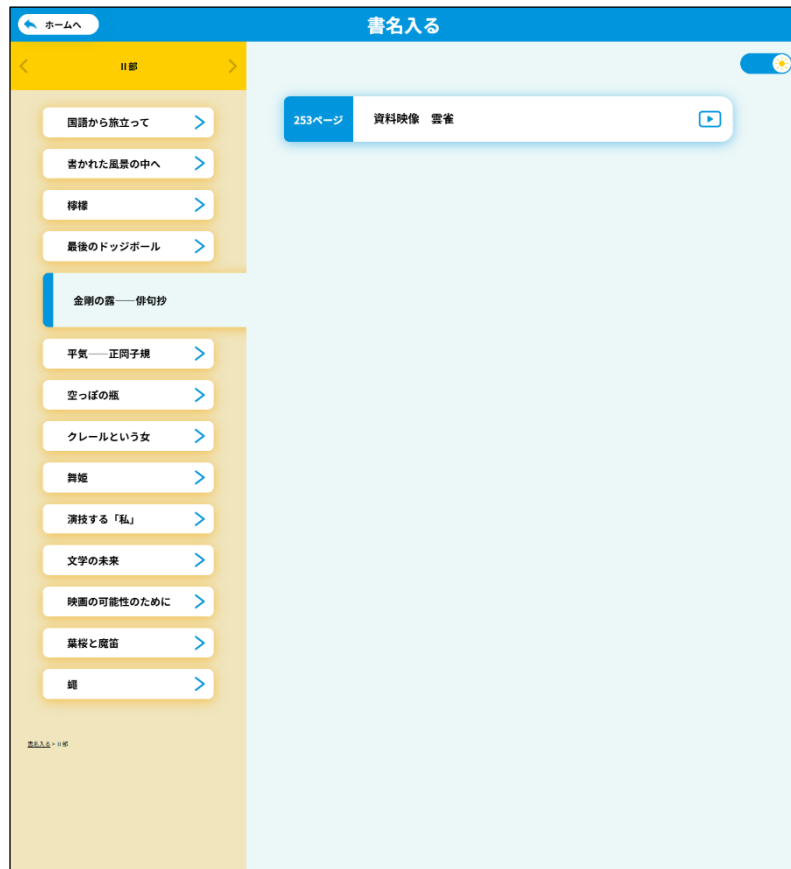
番号 19



番号 20

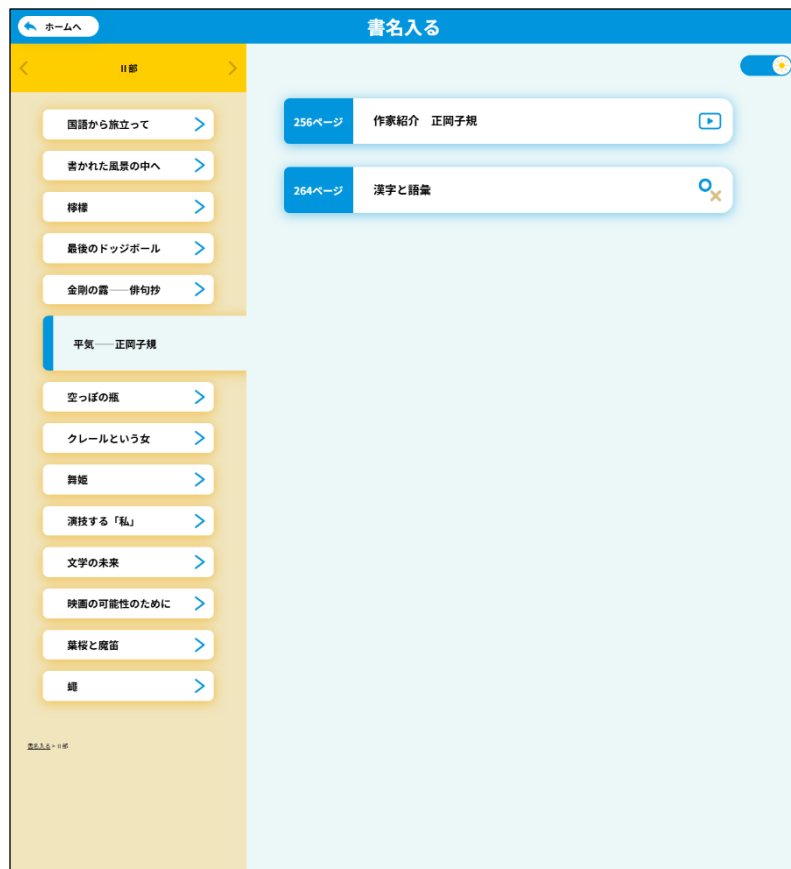


番号 22



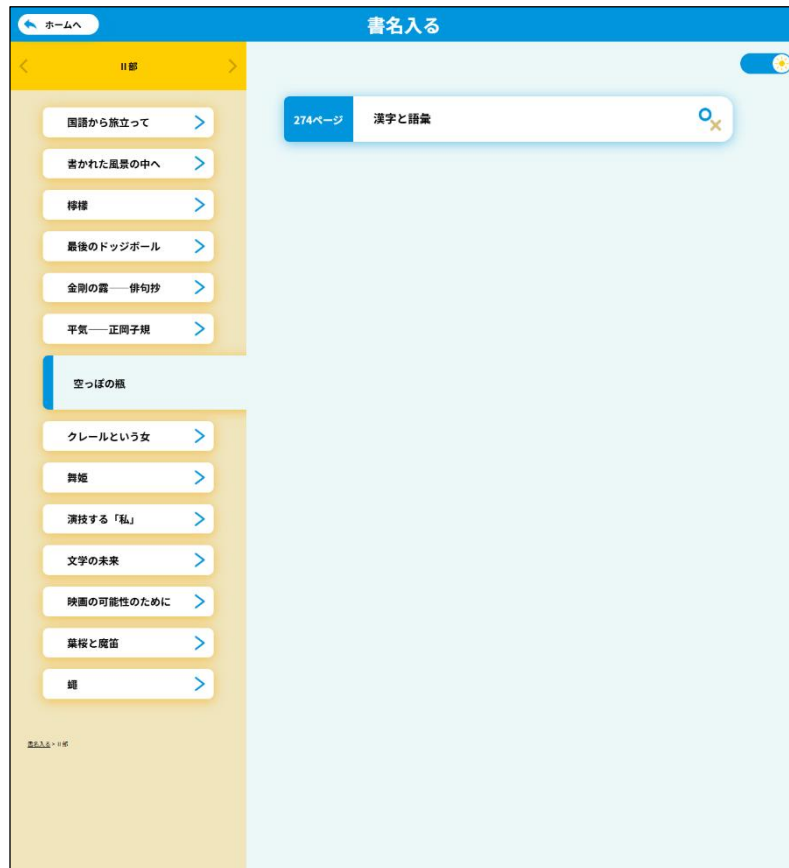
253
ページ
資料映像
雲雀
〔動画〕

番号 23

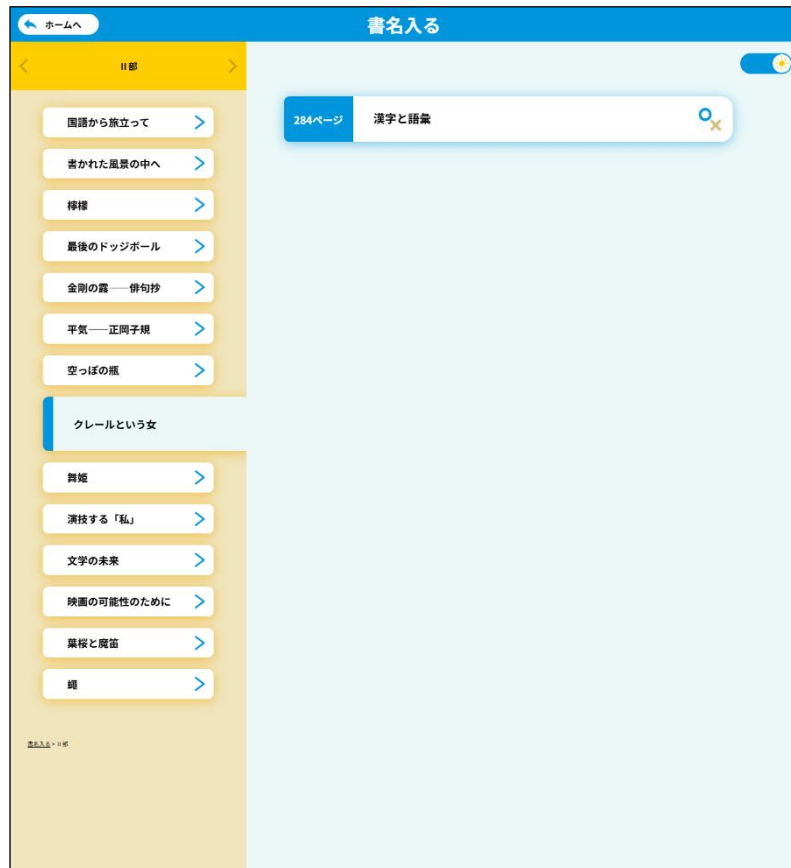


256
ページ
作家紹介
正岡子規
「動画」

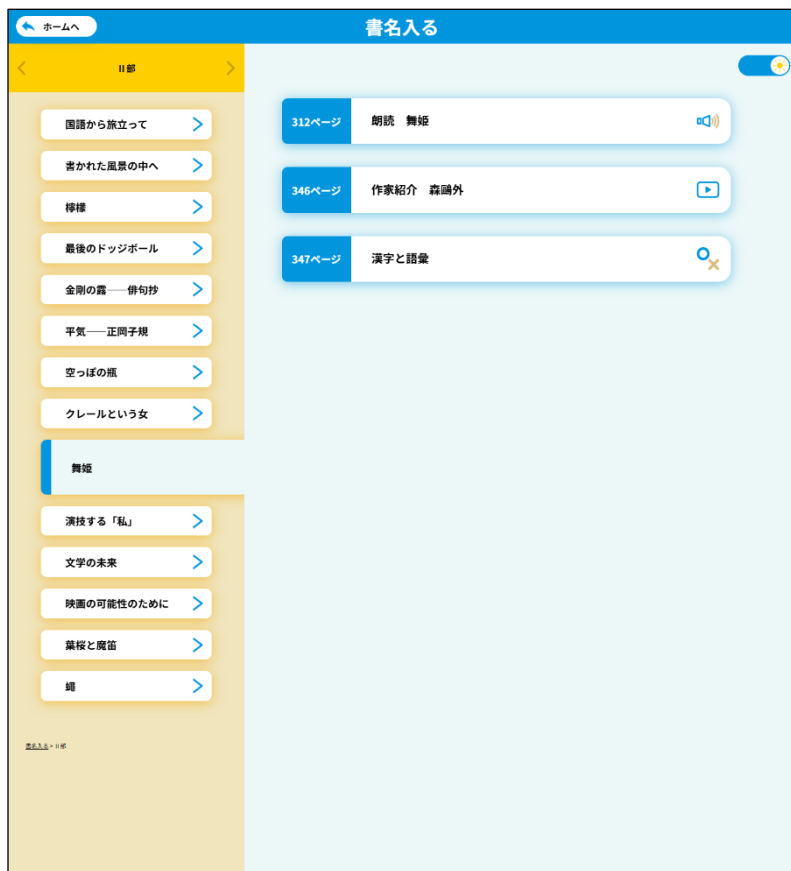
番号 24



番号 25

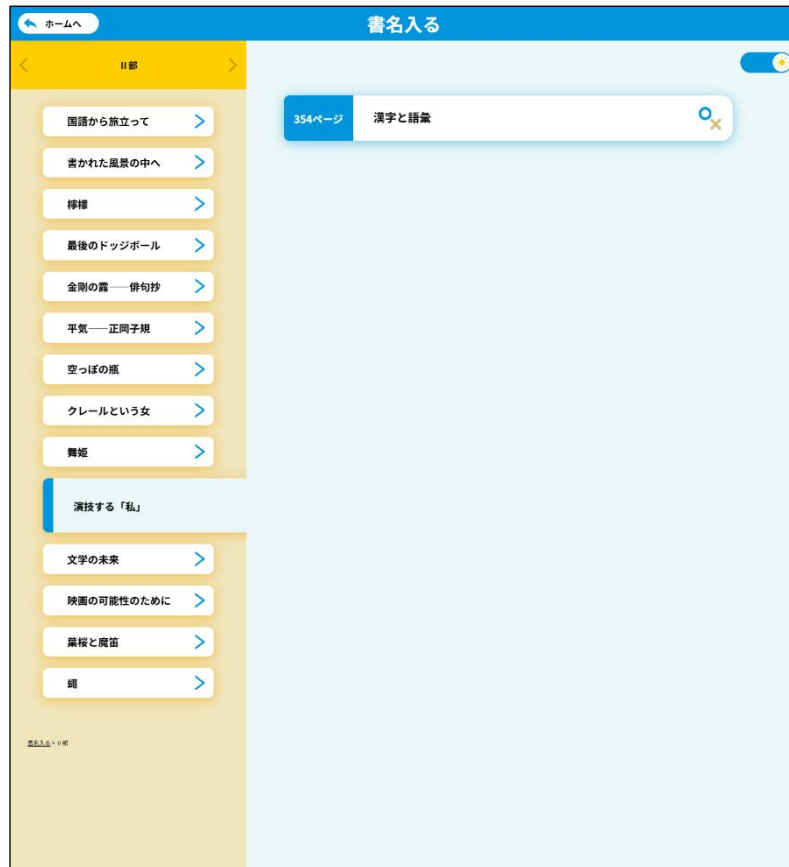


番号 26

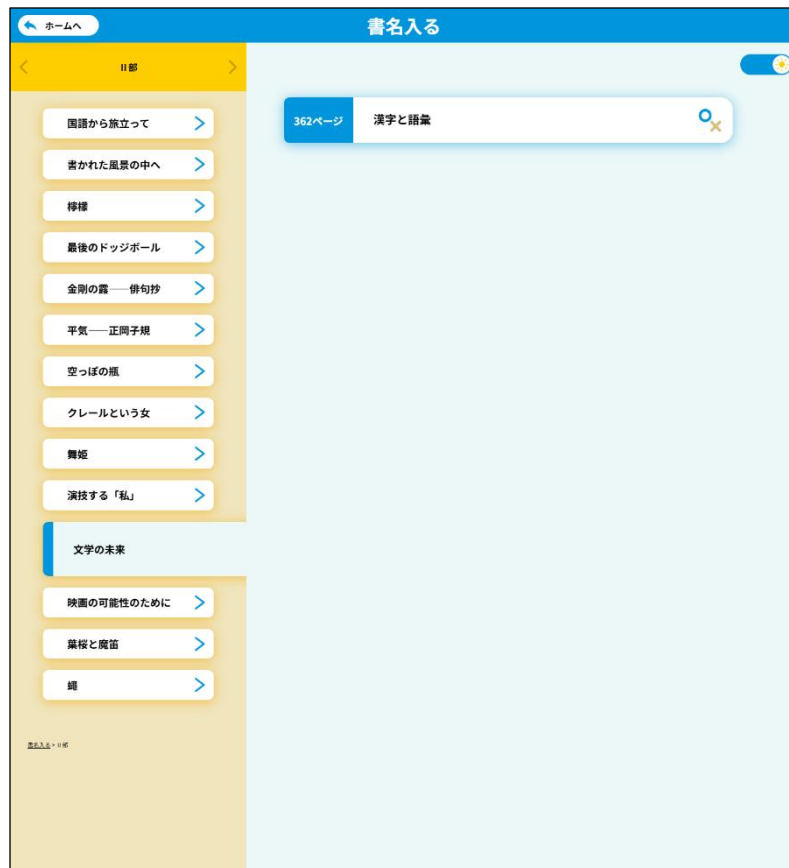


346
ページ
作家紹介
森鷗外
[動画]

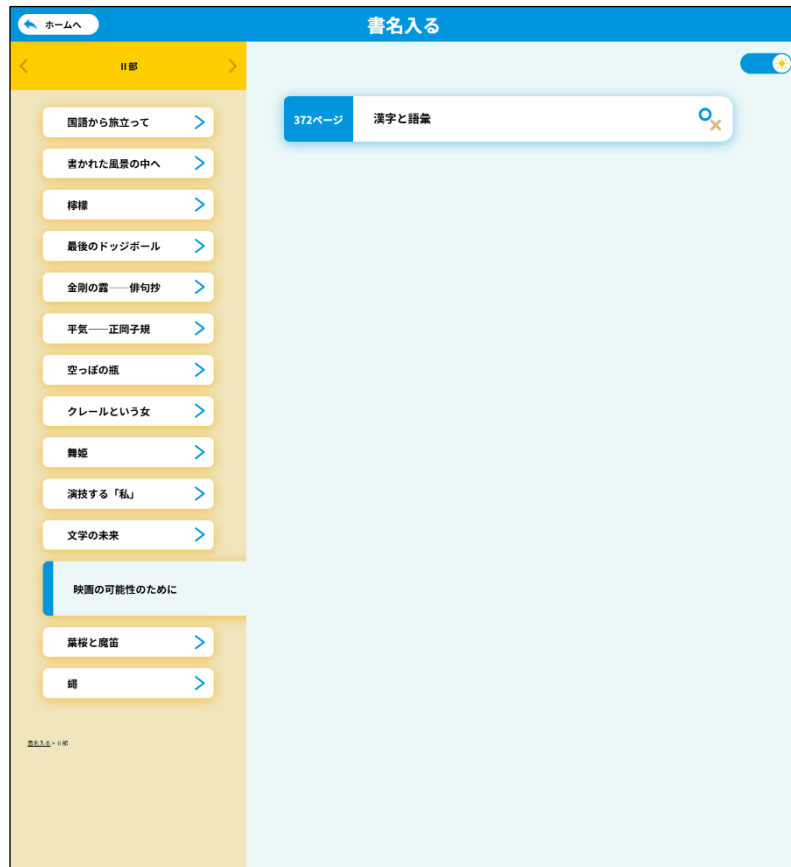
番号 27



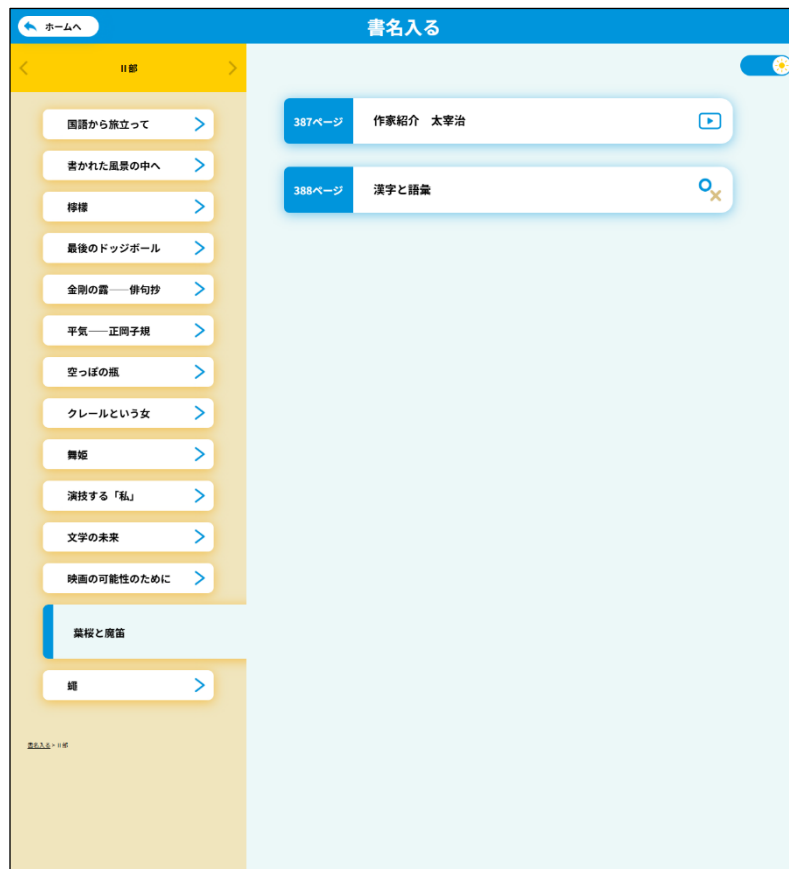
番号 28



番号 29

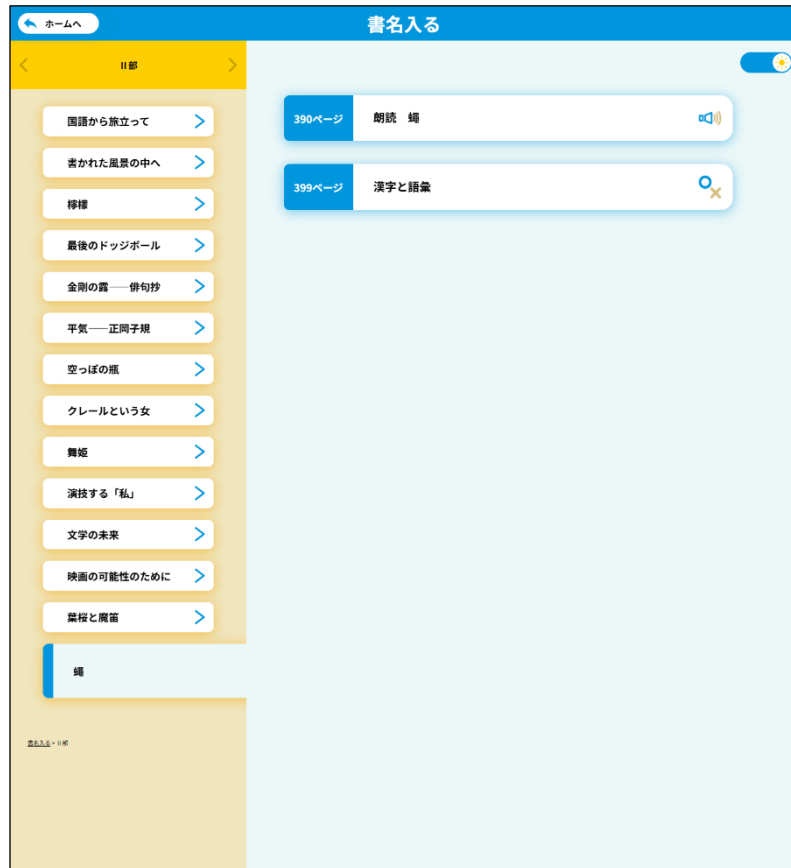


番号 30

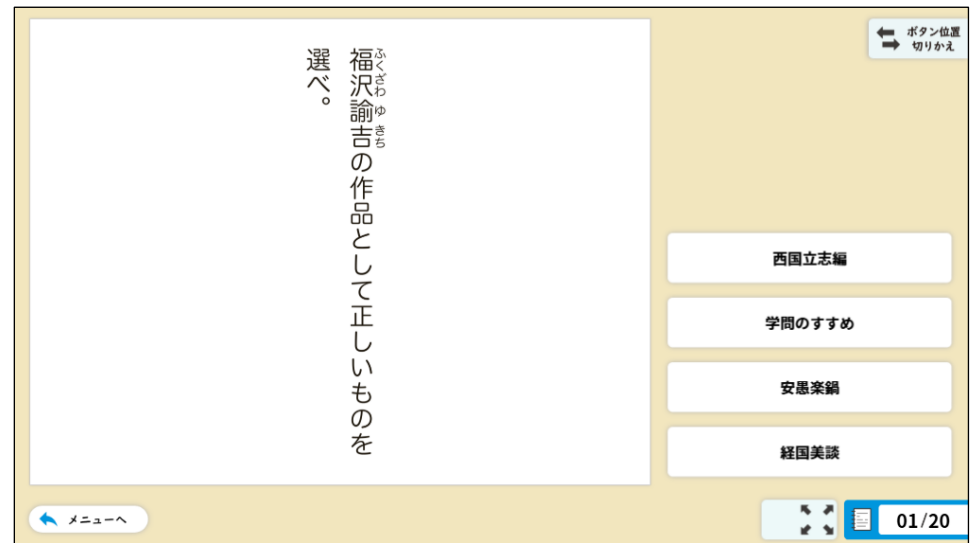


387
ページ
作家紹介
太宰治
「動画」

番号 31



番号 32



404 ページ 小テスト 近現代の日本文学史「クイズ」

創作へのアプローチ

随筆

随筆の魅力は、筆者の独自の発想や感覚にある。筆者の感じ方やものの見方などが斬新であればあるほど、随筆は輝きを増す。「枕草子」が書かれて千年以上たった今でも魅力を失わないのは、ひとえに筆者清少納言の独特な感性ゆえだろう。では、魅力ある随筆を書くにはどうしたらよいだろうか。

ポイント① 体験談を書く

何かに触れて感じたことや思ったことを自由に書いた文章が随筆である。日々の生活の中の気づきを書いてもよいし、旅行で感じたことを書いてもよい。また、読書や映画などの鑑賞を通して思ったことを書いてもよいだろう。

随筆は、必ずしも何かを論理的に説明したり、読者を説得したりしなくてもよい。自分の感じたことや考えたことを素直に書くことが何よりも大切だ。それが、随筆の魅力である独自性を生み出すことになる。

ポイント② 描写しよう

独自の体験を、どう書けば魅力的な文章になるだろうか。その鍵は、具体的な情景描写である。一つ一つの具体的な描写の積み重ねによって、文章は魅力を増していく。例えば、「クレーンという女」(二七五ページ)には、次のような描写がある。

ケヤキの暗い木陰に、薄い、これ以上薄くなったら消えてしまいうような空色のアジサイが、ひよろひよろと伸びた葉の先に水滴のついた花をつけて揺れる小道を、足を滑らせないように気をつけながら上っている。

自分の感覚で捉えた光景を丁寧に描写することで、公園の中のアジサイが映く小道を歩く筆者の姿が目に見えかぶような、魅力的な文章となっている。

ポイント③ 文章表現を工夫しよう

描写に力を入れて体験を書いても、文章が単調になっってしまうこともあるだろう。そうしたときは、書いた文章を見直して表現を工夫してみたい。

工夫の仕方として、例えば、ところどころに会話を入れるというのも有効だ。それも、話している人の口調をそっくりまねて書くと、その人の性格まで自然に表現することができる。文末表現を変えてみるのもよい。体言止めを用いたり、地の文にも会話調を取り入れたりすると、文末表現の単調さを避けることができる。ただし、それらを乱用したり、常体と敬体を無意味に混用したりすると、読みづらい文章となる。さまざまな随筆を表現に着目して読み、表現の工夫の仕方を学ぼう。

